自動車診断テスター

ＤＴ－３３００

取扱説明書

ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使い下さい。
いつでも活用できるように大切に保管して下さい。

株式会社　日本ベンチャー

Ｊａｐａｎ　Ｖｅｎｔｕｒｅ　Co.，Ltd

安全にご使用いただくために

●本製品を安全にご使用いただくために、次のような表示をしています。
表示内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容及び物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

以下の内容をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

⚠ 警告	
	万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常が発生したときは、すぐに電源を切り、車輌の診断コネクタからカプラを抜いてください。 また、バッテリーから電源を供給している時は、バッテリー端子からクリップをはずし、販売店または当社（お客様相談窓口）に修理を依頼してください。 そのまま使用及びお客様による修理は危険ですので絶対にしないで下さい。
	分解や改造をしないで下さい。火災の原因となります。
	濡らさないで下さい。火災や感電の原因となります。
	異物や水などが内部に入った場合は、そのまま使用しないで下さい。 火災や感電の原因となります。 すぐに電源を切り販売店または当社（お客様相談窓口）にご連絡ください。
	液晶が破損した場合、中の液晶には十分注意してください。 目に入ったり、皮膚に付着した際は、すぐに水で洗い流してください。 万一、異常がある場合はすぐに医師に相談してください。
	表示されている電源（ＤＣ12Ｖ・ＤＣ24Ｖ）以外は使用しないで下さい。 火災の原因になります。
	ＡＣアダプタは、診断テスター専用です。他の機器に使用しないで下さい。 火災や感電の原因となります。

⚠ 注意	
⃠	各種ケーブルは取扱説明書で指示された以外の配線をしないで下さい。 火災の原因や、車両側配線系統の故障の原因になる恐れがあります。
⃠	車両側ダイアグコネクタのカプラ接続や取り外しは、キースイッチがＯＦＦの状態で行ってください。キースイッチがＯＮの状態で接続や取外しを行うと故障の原因となります。
⃠	不安定な場所に置かないで下さい。落ちて製品の破損またはけがをする恐れがあります。
⃠	オンライン動作中や診断ソフトの動作中に、電源スイッチを切るとデータが破壊や故障の原因となることがあります。
⃠	ケーブルを抜くときは、引っ張らないで下さい。ケーブルが傷つき故障や火災の原因になります。
⃠	次のような場所に置かないで下さい。火災や感電または故障、誤動作、記憶内容の消失の原因となることがあります。 1. 湿気や誇りの多い場所 2. 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所 3. 直射日光や照明光が直接あたる場所 4. 熱器具の近く 5. 湿度変化の激しい場所 6. 極端に低温になる場所 7. 磁石、スピーカーなど磁気の発生するものの近く 8. 振動が強い場所

目　　次

1.付属品の確認 ---------- 4

2.各部名称 ---------- 6

3.本体の電源とメインメニュー ---------- 7

4.診断 ---------- 8
- セットアップ及び車両との接続 ---------- 8
- 電源の ON・OFF の順序 ---------- 9
- 自動車メーカー選択 ---------- 9
- 記録データとクリア ---------- 10
- 診断カプラ選択 ---------- 10
- 共通カプラ選択時の診断 ---------- 11
- 初期通信及び通信異常 ---------- 11
- 全自己診断 ---------- 12
- システム別診断 ---------- 13
  - 自己診断 ---------- 14
  - データ表示 ---------- 16
  - データ記録 ---------- 16
  - アクティブテスト ---------- 22
- 作業サポート ---------- 24

5.デジタルマルチメータとオシロスコープ ---------- 26
- 電圧測定 ---------- 27
- ストレージオシロスコープ ---------- 27
- イグニッションコイル放電測定 ---------- 29

6.疑似信号 ---------- 30
- ＤＴ-３３００とＤＴ-３００１の接続 ---------- 31
- イグニッションコイルとＤＴ-３００１の接続 ---------- 32
- 放電テスト ---------- 33

１・付属品の確認

下記の製品が全て揃っているかお確かめください。
製品の不足や、輸送中に起きたと思われる破損がある場合及び故障診断に関わるご相談は
当社（お客様相談窓口　土日及び祭日を除くＡＭ１０時～ＰＭ５時）にご連絡ください。

当社の住所及び連絡先は最終項に記載されています。

ＤＴ－３３００標準セット内容一覧

	品　　名	型　　式	数　　量
1	ＤＴ－３３００本体（ソフト内蔵型）	ＤＴ－３３００	1
2	ＯＢＤケーブル	ＤＴ－１０００	1
3	取扱説明書（ＣＤ）	――――	1
4	ＡＣアダプタ	ＤＴ－１２１０	1
5	ＵＳＢケーブル（1m）	ＤＴ－ＵＳＢ	1
6	アルミ製ケース	ＤＴ－ＨＲＤ	1
7	測定ケーブル	ＤＴ－１０１０	2
8	グランドケーブル	ＤＴ－１０１１	1
9	プローブ（アカ・クロ）	ＭＰＳ１	各1

メーカー専用診断カプラセット（オプション　DT－ADP）

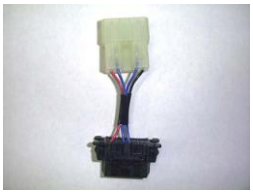
OBD-Ⅱ診断コネクタ（統一された16ピンコネクタ）以前のメーカ専用診断コネクタが付いている車両は
メーカー専用診断カプラが必要です。

	品名	型式	数量
1	トヨタ用カプラ	ＤＴ－１０３０－１	1
2	トヨタ用 TDCL カプラ	ＤＴ－１０３０－２	1
3	日産用カプラ	ＤＴ－１０２０	1
4	三菱用カプラ	ＤＴ－１０４０	1
5	スバル用カプラ	ＤＴ－１０５０	1
6	ホンダ用カプラ	ＤＴ－１０６０	1
7	シガライタケーブル	ＤＴ－１００２	1

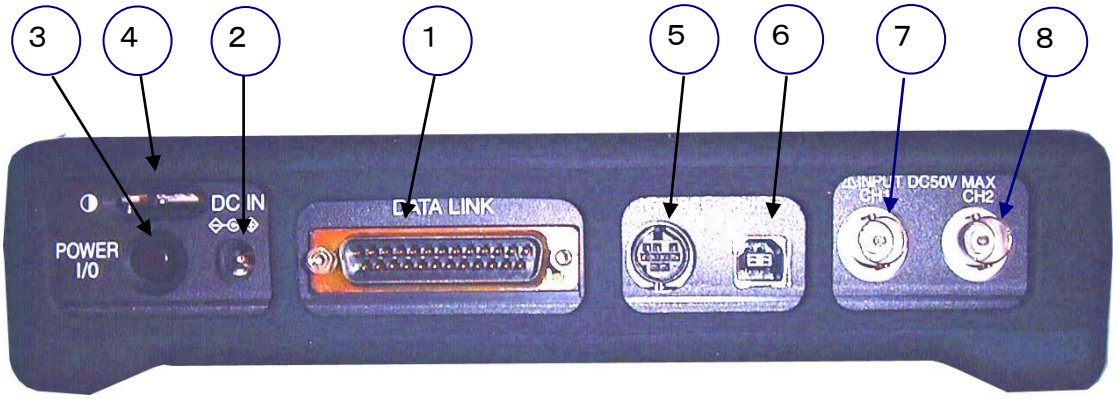
１－１　標準セットの写真

DT-3300 本体（ソフト内蔵）	ハードケース	取扱説明書（CD）	OBDケーブル
DT-3300	DT－33HD	―――	DT-1000
ＡＣアダプタ	ＵＳＢケーブル（1m）	測定ケーブル	グランドクリップ
ＤＴ－1210		ＤＴ-1010	ＤＴ-1011
プローブ			
MPS1			

1-2　メーカー専用診断カプラセット（オプション　DT-ADP）の写真

トヨタ用カプラ	トヨタ用 TDCL カプラ	日産用カプラ	三菱用カプラ
DT-1030-1	DT-1030-2	DT-1020	DT-1040
スバル用カプラ	ホンダカプラ	シガライタケーブル	
DT-1050	DT-1060	DT-1002	
			

2・本体各部名称



①	データリンクコネクタ--------	ＯＢＤケーブルを接続します。
②	ＤＣジャック----------	ＡＣアダプタまたはバッテリーケーブルを接続します。
③	電源スイッチ----------	プッシュ式（ＯＮ/ＯＦＦ）電源用スイッチです。
④	表示濃淡調整----------	スライド式ＬＣＤの濃淡を調整します。
⑤	ＲＳ２３２Ｃ----------	プリンターと接続します。
⑥	ＵＳＢ----------	パソコンと接続します。
⑦	ＣＨ１----------	計測用コネクタ（電圧測定、オシロスコープ）
⑧	ＣＨ２----------	信号出力コネクタ（パルス、アナログ電圧）
⑨	選択キー----------	メニューやソフトキーを選択します。
⑩	ＥＮＴキー----------	選択した機能を実行します。
⑪	ＥＳＣキー----------	１つ前またはメニューに戻ります。

3・本体の電源とメインメニュー

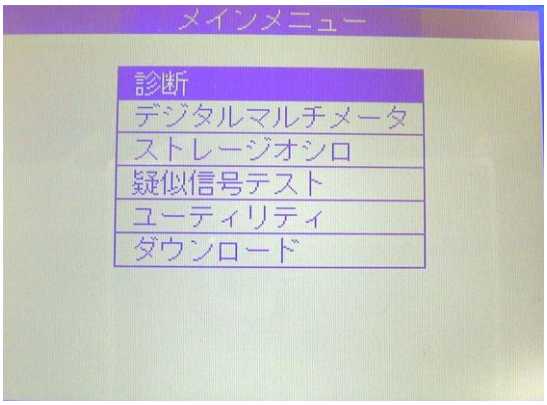
診断テスター（以下テスターと称す）の電源は、ＯＢＤケーブルを車輌の診断コネクタに接続した場合、診断コネクタから供給されます。それ以外では、ＡＣアダプタやバッテリーケーブルでＤＣ１２Ｖまたは、ＤＣ２４Ｖを供給してください。
テスターの電源スイッチをＯＮすると、テスターのハードチェックを開始します。
ハードが正常の場合、「スタート」が表示され、システムが起動します。
表示の濃淡は、外気温度で変化しますので、表示の濃淡調整を行ってください。

スタート表示

電源をＯＮするとテスターのハードチェックを行い、正常時は「スタート」を表示します。
異常コードが表示された場合は、当社お客様窓口にご連絡ください。

ＥＮＴでメインメニューが表示されます。

メインメニュー



1. 診断
   自己診断（故障コード表示）やデータ表示、アクティブテストなど、診断を行います。
2. デジタルマルチメータ
   電圧測定や周波数測定を行います。
3. ストレージオシロ
   センサ信号やアクチュエータ制御信号などの波形測定を行います。
4. 疑似信号テスト
   エアーフローセンサの補正テストとアクチュエータの単体動作テストを行います。
5. ユーテリティ
   日付及び時刻の設定を行います。
6. ダウンロード
   パソコンとデータ通信を行い、テスターのＯＳや診断ソフトの書替えを行います。

↑↓キーで項目を選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣで電源ＯＦＦ可能画面に戻ります。

４. 診断

車輌のコントロールユニット（以下Ｃ/Ｕと称す。）に搭載されているＯＢＤ機能にアクセスして故障部位や制御データの確認、及びアクチュエータの駆動テストやシステムの初期設定を行うことができます。
診断機能や操作手順はメーカーや診断ソフトのバージョンによって異なります。
この章では、基本的な故障診断の操作方法をトヨタ診断ソフト（バージョン 5.00）を例に全自己診断やパワートレン（ＴＣＣＳ（エンジン、Ａ／Ｔ））及び車輌の初期設定などの操作方法を解説します。
データ項目及び対応車種など詳しくは、メーカー別診断ソフト取扱説明書をご覧ください。

４-1 セットアップ

1. テスターのデータリンクコネクタとＯＢＤケーブルを接続します。
2. 車両側診断コネクタが専用コネクタの場合、ＯＢＤケーブルに診断カプラを取り付けます。
   また、ＤＣジャックの付いている診断カプラは、車両側診断コネクタに電源がありません。
   この場合は、シガライタケーブルを接続し、車両のシガライタに取り付けてください。

1. 診断カプラをＯＢＤケーブルの先に取り付ける。
2. ジャック付カプラは、シガライタケーブルを取り付ける。

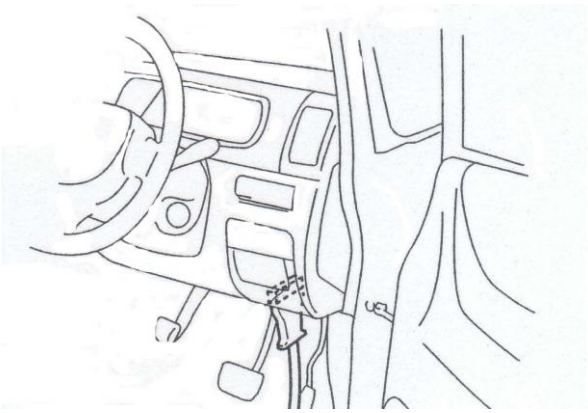
ＤＣジャック付きカプラ

シガライタケーブル

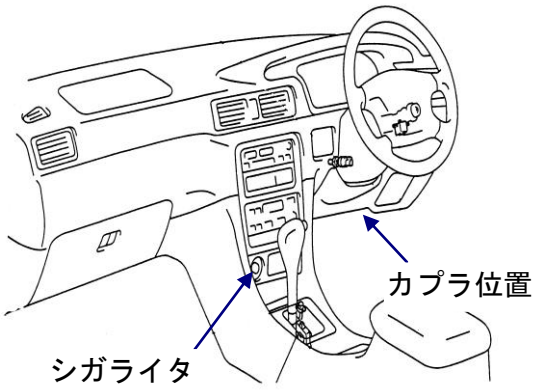
４－２車両との接続及び取外し。

車両の診断コネクタと診断テスターの接続及び取外しは、必ず、車両のキースイッチとテスターの電源をＯＦＦの状態で行ってください。

車両との通信中に取り外すと故障の原因になることがあります。



●車両側診断コネクタが共通コネクタ
（ＯＢＤ―Ⅱ16 ピンコネクタ）の場合
ＯＢＤケーブルを直接取り付ける。



● 車両診断コネクタが専用コネクタの場合
車両側コネクタとトヨタ専用（ＴＤＣＬ）
コネクタを取り付けたＯＢＤケーブルを
接続し、シガライタケーブルを接続する。

４－３・電源のＯＮ／ＯＦＦの順序

車両のキースイッチとテスターの電源ＯＮ/ＯＦＦは下記の順序で行ってください。

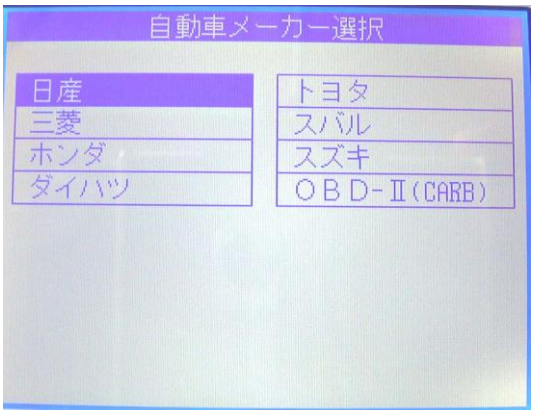
1. 電源ＯＮ
    1. 車両のキースイッチＯＮ又はエンジンを駆ける。（アクセサリー位置ではない。）
    2. テスターの電源スイッチをＯＮする。（スイッチを押す。）

2. 電源ＯＦＦ
    1. テスターの操作キーＥＳＣを何度か押して、電源ＯＦＦ可能メッセージまで戻り、テスターの電源ＯＦＦする。
    2. 車両のキースイッチをＯＦＦする。

４－４自動車メーカー選択

メインメニューから診断を選択すると、メーカー選択画面が表示されます。
本体に内蔵されている診断ソフト及び機能は購入された時期によって異なります。
標準本体では診断ソフトを８メーカー格納できます。（オプションで１６メーカ格納可能）
診断ソフトが８メーカーを超える場合は、パソコンのフォルダーに診断ソフトを保存し、
必要に応じて、ＷＲＩＴＥ-Ⅲを使用して診断ソフトを書替えてください。

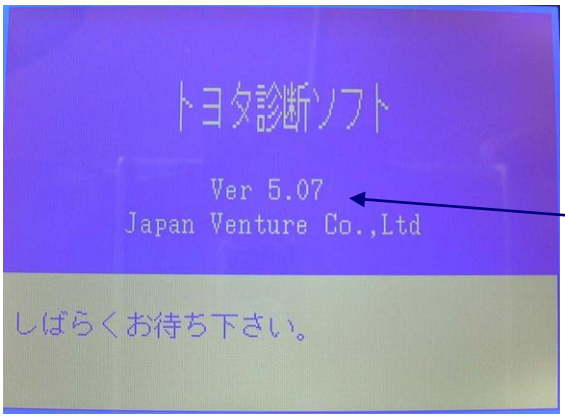
メーカー選択



メインメニューから診断を選択します。

1. ↑↓→←キーでメーカーを選択します。
2. ＥＮＴで選択した診断ソフトが起動します。
3. ＥＳＣで電源ＯＦＦ可能画面に戻ります。

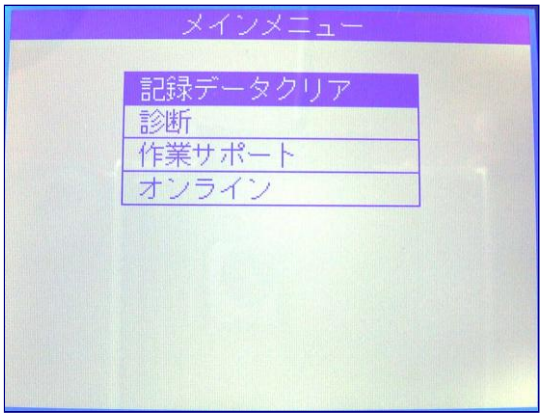
診断ソフトの起動



診断ソフトが起動し、数秒後に診断ソフトメインメニューが表示されます。
診断ソフトのバージョンが表示されます。

診断ソフトバージョン表示

診断メインメニュー



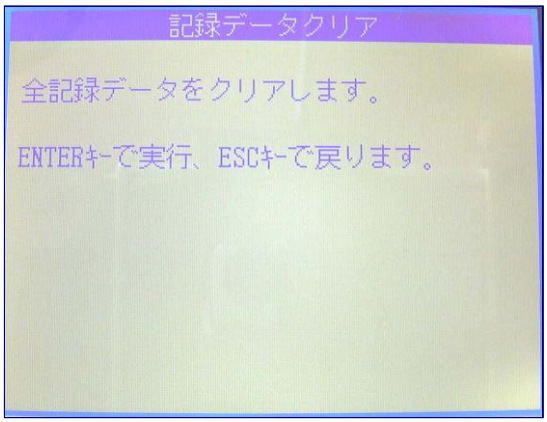
1. 記録データクリア
   テスターに記録されたデータをクリアします。
2. 診断
   車両と通信してシステムの診断を行います。
3. 作業サポート
   整備作業のサポートや初期設定を行います。
4. オンライン
   データ管理ソフト「カルテ」と通信を行います。

ＥＮＴで実行、ＥＳＣでメーカー選択に戻ります。

４－５記録データとクリア

診断結果の記録は、自己診断、データ表示、アクティブテストに各々４メモリあります。
記録結果はデータ管理ソフト「カルテ」で読取り、印刷してレポートが行えます。
データの保存時間は、テスターの電源をＯＦＦしてから約８時間です。
８時間を越えるとデータが化けますので、８時間以内にカルテに移してください。
また、記録は複数の車両を同時に記録することはできません。
必ず１台ごとに記録したデータをカルテに引渡し、次の車両データを記録してください。
診断結果の記録を使用する場合は、診断に入る前に記録データをクリアしてください。

記録データクリア



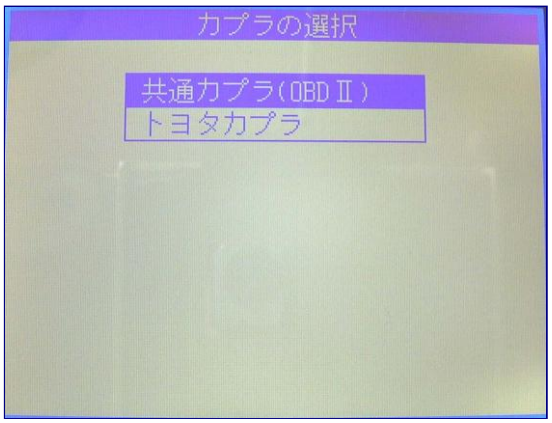
診断メインメニューから記録データクリアを実行します。

1. ＥＮＴでクリア確認後、クリアを実行して診断メインメニューに戻ります。
2. ＥＳＣで診断メインメニューに戻ります。

４－６診断（カプラ選択）

診断カプラは各メーカー共通のＯＢＤ－Ⅱ診断カプラとメーカー専用カプラがあり、車輌との通信方式が異なります。選択を間違うと通信異常となります。

診断カプラ選択



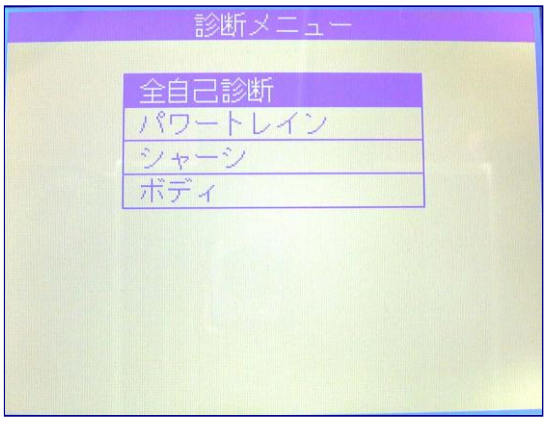
診断メインメニューから診断を選択します。

1. 共通カプラ
   車両の診断コネクタがＯＢＤ－Ⅱの場合。
2. 専用カプラ（例、トヨタカプラ）
   車両の診断コネクタがメーカー専用の場合。
3. ＥＮＴで実行、ＥＳＣで診断メインメニューに戻ります。

４－７共通カプラ選択時の診断

共通カプラを選択すると診断メニューが表示されます。
診断メニューは、メーカーや診断ソフトのバージョンより表示されないソフトがあります。
この場合、診断メニューをパスして通信チェックが開始します。

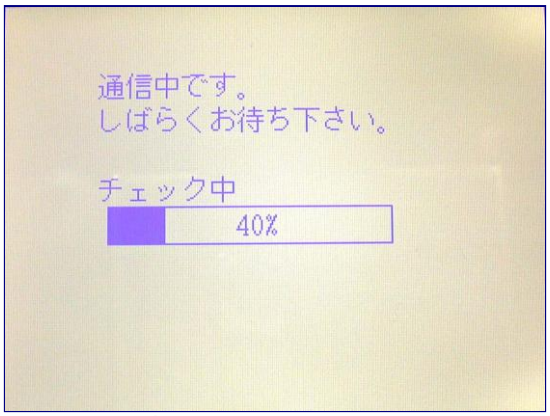
診断メニュー



診断メインメニューから診断を選択します。
1. 全自己診断
   診断ソフトが対応しているシステムの自己診断を一挙に行います。
2. パワートレン
   エンジンやＡ／Ｔなどパワー系システム
3. シャーシー
   ＡＢＳ、４ＷＤなどシャーシー系システム
4. ボディ
   ＳＲＳ、やＢＣＭなどボディ系システム
5. ＥＮＴで実行、ＥＳＣで診断メインメニューに戻ります。

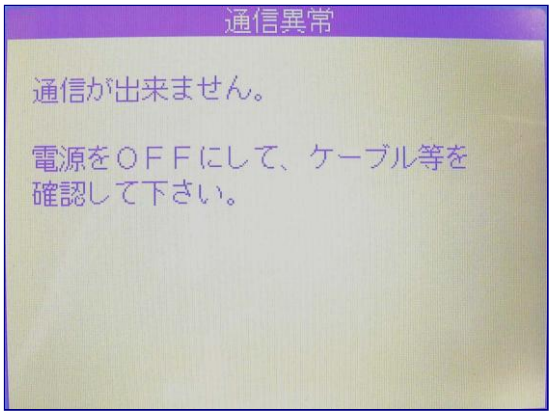
４－８初期通信及び通信異常

通信チェック



車輌のＣ／Ｕと通信を開始すると、初期通信が行われ、進行状態を表示します。
メーカーによりパーセント表示は異なります。
初期通信中、操作キーは動作しません。
初期通信が正常に終了すると対応システムメニューが表示されます。
異常の場合、通信異常が表示されます。

通信異常



通信異常は下記の原因が考えられます。

1. 現在の診断ソフトが車両に対応していない。
2. 車両のキーがＯＮしていない。
3. 車両システムのヒューズが切れている。
4. 診断コネクタの接触が悪い。

ＥＳＣ及びＥＮＴで診断メニューに戻ります。

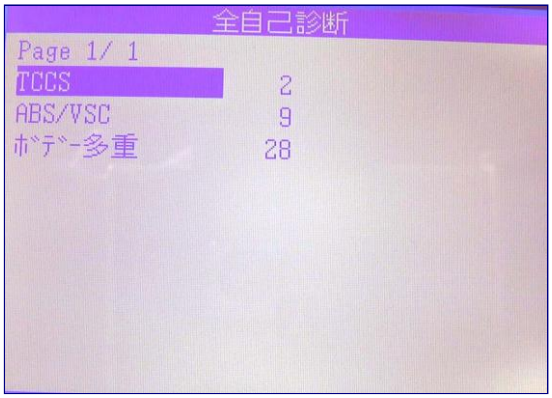
●車輌の対応表を確認してください。

通信異常の場合は、診断ソフト取扱説明書（ＣＤ）の対応表で対応車種を確認してください。
対応表はエンジンをベースに記載されています。
診断ソフトが現在、診断している車輌に対応している場合は、別の車両で確認してください。

４－９全自己診断

全自己診断は、エンジンやＡＢＳなどＣ／Ｕが記憶している故障コードを自動的に読取り、システム名と故障コードの数を表示する機能です。
Ｃ／Ｕが故障コードを記憶していると、システム名と自己診断コード数を表示し、異常がない場合、故障コード数の欄が「異常なし」と表示されます。
故障内容を確認する場合は、システムを選択し、システム別の自己診断を行ってください。
内容確認後、ＥＳＣで戻る際、再度、全自己診断を実行します。
内容確認を行わないでＥＳＣの場合、診断メニュー（システム選択）に戻ります。

全自己診断結果



システム名と故障コードの数を表示します。
ＴＣＣＳ---------故障コード　2 種類有り
ＡＢＳ／ＶＳＣ---故障コード　9 種類有り
ボディ----------故障コード　28 種類有り

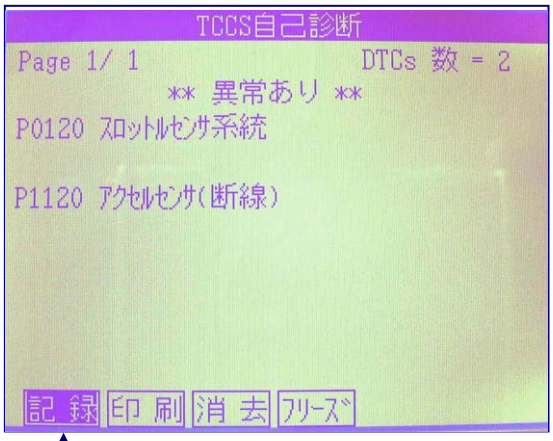
↑↓キーでシステムを選択し、ＥＮＴで各システム別の自己診断を実行します。
ＥＳＣで診断メニューに戻ります。

モード選択

モード選択はメーカーや診断ソフトのバージョンにより、表示されない診断ソフトがあります。
故障コード読取りはノーマルモードで実行します。
チェックモードは、使用しません。

ＥＮＴで故障コードの読取りを実行します。
ＥＳＣで診断メニューに戻ります。

自己診断内容表示



ソフトキー　左右キーで選択。

故障コードと故障箇所が表示されます。

1. 記録
   診断結果をテスターのメモリに記録します。
2. 印刷
   プリンター（オプション）に印刷します。
3. 消去
   車両の故障コードを消去します。
4. フリーズ
   故障コード認識時のデータを表示します。

ソフトキーは、ＥＮＴで実行します。
ＥＳＣで診断メニューに戻ります。

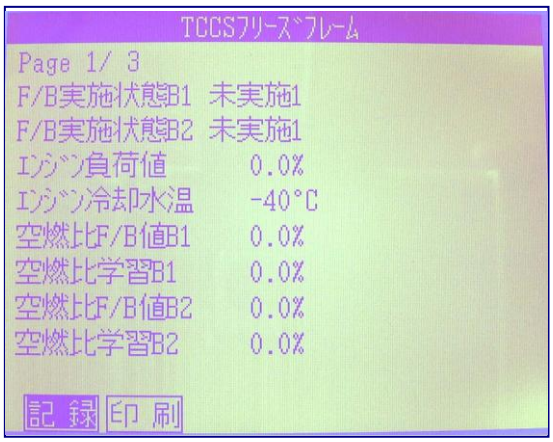
記録（自己診断）

登録メモリは 4 つあり、登録されたデータはカルテで読取り、印刷してレポートができます。

5. 登録
   診断結果をメモリ 1～4 に記録します。
6. 削除
   登録したデータを削除します。
7. 表示
   登録されているデータを選択し、表示できます。

ＥＮＴで実行、ＥＳＣで１つ前に戻ります。

フリーズ



Ｃ／Ｕが故障コードを認識した時、同時に記憶されるデータで、再現テストに役立ちます。

8. 記録
   自己診断の記録と同一メモリに記録されます。
9. 印刷
   プリンター（オプション）に印刷します。

ソフトキーは、ＥＮＴで実行します。
ＥＳＣで診断メニューに戻ります。

４－１０システム別診断

パワートレンやシャーシー及びボディなどシステム別に診断を行います。
この章では、パワートレン（ＴＣＣＳ（エンジン））を例に機能及び操作を説明します。
システム別診断では、自己診断、データ表示、データ記録、アクティブテストの診断機能があり、故障現象よって診断に使用する機能が異なります。

1. 自己診断
   チェックランプが点灯している場合、入力回路や出力回路が断線や短絡している場合が非常に多く、日本車は２００７年以降発売されでいる車輌は、失火気筒も表示します。
   センサの特性不良やアクチュエータの動作不良による故障は断線や短絡ではないので診断結果は「異常なし」と表示され、この故障現象では自己診断機能は効果ありません。

2. データ表示
   センサの特性異常やシステムの機械的な故障から起こる故障は、各種のデータから故障原因を判断します。
   正常時データ（参考値データ）と現在の測定データを比較し、故障部位を絞り込みます。

3. アクティブテスト
   インジェクタの噴射時間を変化（空燃比を変化）して、故障現象の改善を確認したり、燃焼の悪い気筒を見つけるパワーバランスなど各種のテストがあります。

   ※メーカーや診断ソフトのバージョンで診断機能が異なります。

対応システムメニュー

パワートレンを選択すると初期通信を行い、対応システムを表示します。

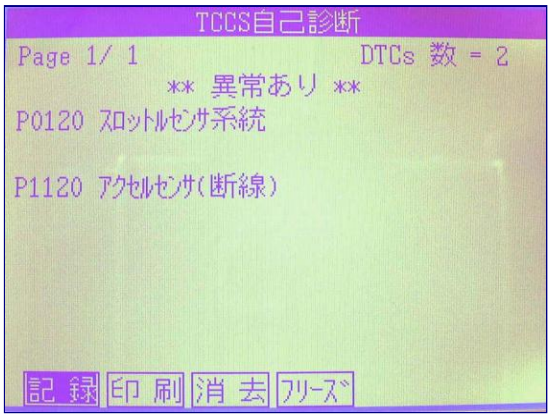
1. ↑↓キーで選択し、ＥＮＴで診断を実行します。
2. ＥＳＣで診断ソフトメインメニューに戻ります。

ＴＣＣＳ診断メニュー

1. 自己診断
   コントロールユニットの記憶している故障コード及び故障箇所を表示します。
2. データ表示
   入力信号や計算値及び出力信号を表示します。
3. データ記録
   マニアル記録（連続記録）と参考値記録です。
4. アクテイブテスト
   アクチュエータの駆動テストを行えます。

↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣで診断ソフトメインメニューに戻ります。

４－１０-1 自己診断

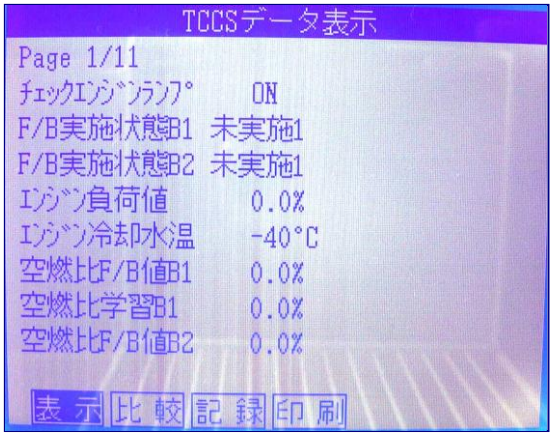


全自己診断のシステム別自己診断と操作及び機能は同じです。

1. 自己診断を実行。
2. ノーマルモードを選択し、実行。

ＥＳＣでＴＣＣＳ診断メニューに戻ります。

４－１０－２データ表示



↑↓キーで画面が切り替わります。
1. 表示
   項目を選択して表示できます。
2. 比較（エンジンのみ）
   参考値と測定中のデータを同時に表示します。
3. 記録、印刷
   自己診断の機能と同一で、記録されたデータはカルテで読取り、レポートできます。

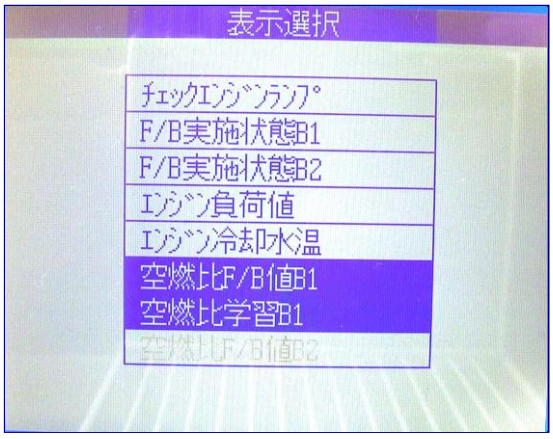
ＥＳＣでＴＣＣＳ診断メニューに戻ります。

表示選択

1. 全項目
   全項目で表示します。
2. 項目選択
   表示選択に進みます。

ＥＳＣキーでデータ表示に戻ります。

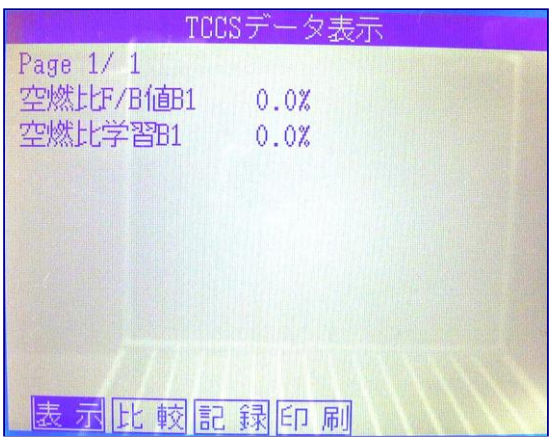
項目選択



↑↓キーで項目を選択します。
選択された項目はフラッシングします。
まだこの段階では選択が決定されていません。
ＥＮＴキーをＯＮすることで反転表示になり選択が決定します。
再度ＥＮＴキーをＯＮすると反転表示が通常表示に戻り、選択が解除されます。

ＥＳＣでデータ表示に戻ります。

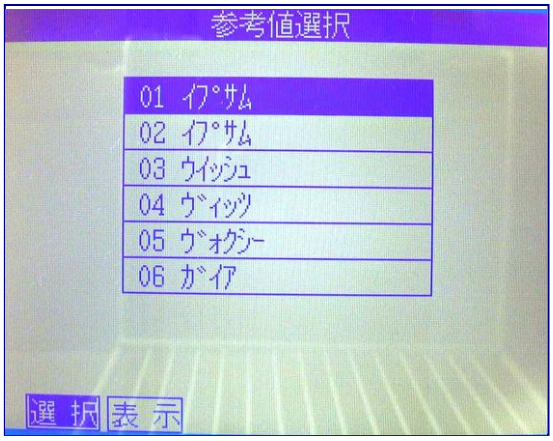
選択表示



各ページにある項目を同時に表示できます。
また、表示項目を６項目位にすると、データ表示が速くなり、早いデータ変化の測定に便利です。

ＥＳＣでＴＣＣＳ診断メニューに戻ります。

比較（参考値選択）



↑↓キーで車種を選択します。
年式によってデータが全く違う車両があります。
参考値の内容を確認してから実行してください。
1. 選択
　選択した参考値データの比較選択に進みます。
2. 表示
　選択した参考値の車両情報を表示します。

※参考値を記録してない場合、選択できません。
ＥＮＴで実行、ＥＳＣでデータ表示に戻ります。

比較（データ表示）

アイドル回転時及び２０００回転時の参考値データの選択を経由して参考値データと測定データを同時に表示します。
参考値データはエンジンが正常な時に記録されたデータですので故障時に測定値と比較するとデータの違いがよく解ります。

記録、印刷は、自己診断の機能と同一です。

ＥＳＣキーでデータ表示に戻ります。

４－１０－３データ記録

データ記録は参考値データ記録とマニアル記録（連続データ記録）があります。
参考値データ記録は、車検時及び販売時など車輌が正常な時のデータをアイドル回転と２０００回転時で記録します。
本来、エンジンが正常とは体感で異常は感じられず、空燃比学習値、補正値が規定値以内であり、排気ガスを測定してＣＯ、ＨＣ、ＣＯ２、Ｏ２、λ（ラムダ）が規定範囲にあることですが、排気ガス測定はＣＯ、ＨＣだけでもＯＫです。

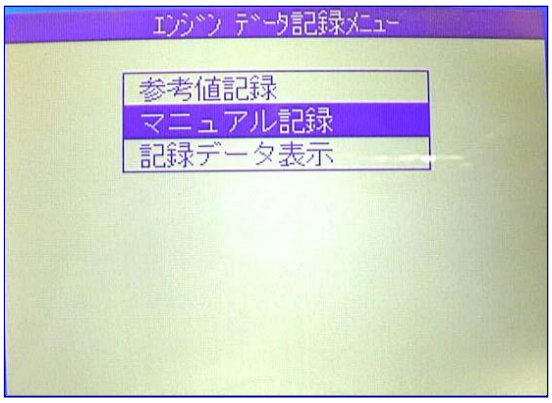
空燃比学習値、補正値共に０±２０%以内（１００%と表示される場合、１００＝０とする）

排気ガス規定値

1. ＣＯ	０．５%　ＶＯＬ以下
2. ＨＣ	６０ｐｐｍＶＯＬ以下
3. ＣＯ２	１４．０%ＶＯＬ以上
4. Ｏ２	０．５%　ＶＯＬ以下
5. λ（ラムダ）	1.0±３%以内

マニアル記録は前部（ＥＮＴキーを押す前）データと後部（ＥＮＴキーを押してから）のデータがあり、前部、後部共に６００通信分のデータを連続で記録します。
突然、起こる故障の診断や変速しないＡ／Ｔの診断などに有効です。
データを連続記録してデータの変化等を確認できます。

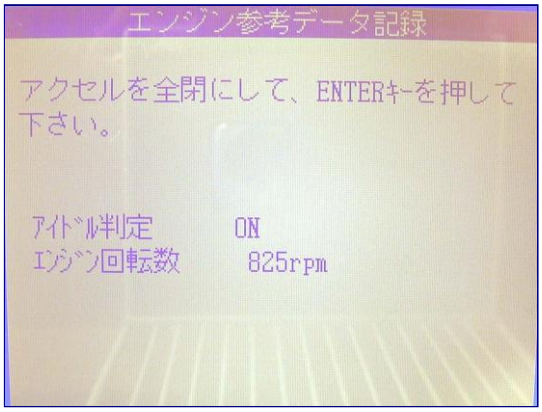
データ記録メニュー



1. 参考値記録
   正常なエンジンのデータに車両情報を付加し参考値データとして記録します。
2. マニアル記録
   現在測定中の全データを連続記録します。

↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣでＴＣＣＳ診断メニューに戻ります。

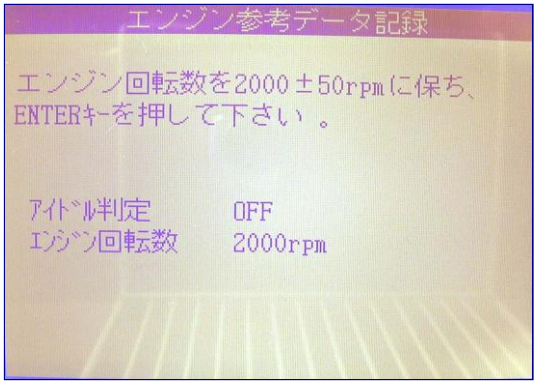
参考値記録（アイドル回転）



参考値を記録時は下記の条件を確認してください。
1. 水温 80℃～100℃の範囲で完全無負荷であること
2. 自己診断コードを認識していないこと
3. 規定のアイドル回転数であること
4. Ａ／Ｔ車はＮ及びＰレンジであること
5. アイドル判定またはアイドルＳＷがＯＮのこと
6. Ｏ２フィードバックがクローズであること
   （クローズでない時は一度レーシングする）

ＥＮＴで２０００回転記録へ進み、ＥＳＣでデータ記録を中止してメニューに戻ります。

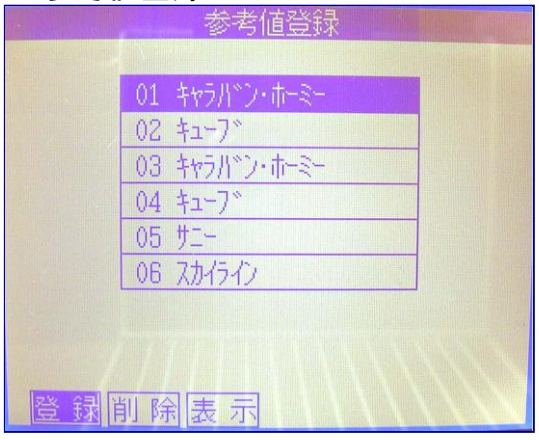
参考値記録（2000 回転）



エンジン回転数を 2000ｒｐｍ～2100ｒｐｍの範囲に保ってＥＮＴをＯＮしてください。

ＥＮＴで参考値登録へ進み、ＥＳＣでデータ登録を中止してメニューに戻ります。

参考値登録



記録したデータに車両情報を追加して登録します。

1. 登録
   車種設定に進みます。
2. 削除
   選択されている参考値を削除します。
3. 表示
   選択されている参考値の車輌情報を表示します。

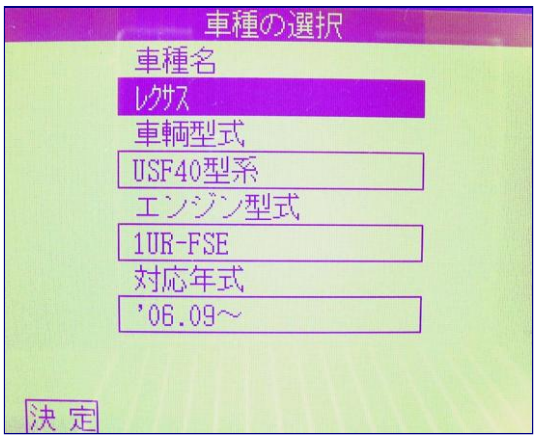
ＥＮＴで実行、ＥＳＣでメニューに戻ります。

車種設定

1. 設定を選択してＥＮＴをＯＮしてください。
   車種選択に進みます。
2. 決定は車種の設定が終了するとこの画面に戻りますので、車種選択が終了してから決定キーをＯＮしてください。参考値が登録されます。
3. 手動（文字入力）で車輌情報の編集ができます。

ＥＮＴで実行、ＥＳＣでメニューに戻ります。

車種選択

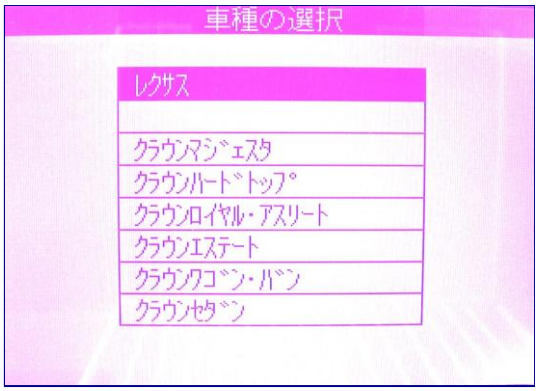


車種名、車両型式、エンジン型式、年式の各項目を各メニューから選択し、最後に決定します。

1. 車種名　：車種名メニューが表示されます。
2. 車両型式：車輌型式メニューが表示されます。
3. エンジン型式：エンジン型式メニューを表示。
4. 対応年式：対応年式のメニューが表示されます。
5. 決定　：車種情報設定車輌情報が入力されます。

ＥＳＣは使用できません。

車両名選択



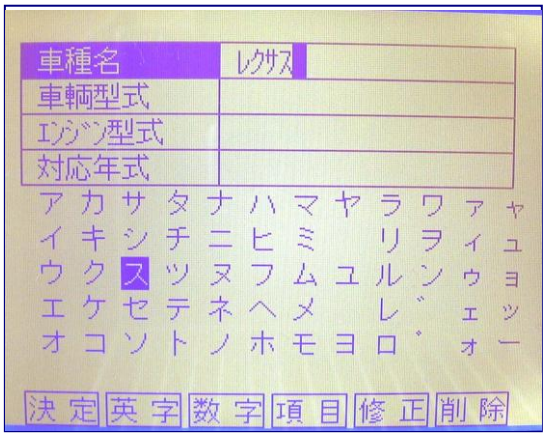
車両名選択メニューが表示されます。
↑↓キーで車種を選択してください。
ＥＮＴで車種選択画面に戻ります。

注意
診断ソフトによっては、カーソルがフラッシング状態で移動し、ＥＮＴキーで反転表示になります。
ＥＳＣで車種選択画面に戻ります。

車輌型式その他選択

操作は車両名選択と同一です。
エンジン型式、年式の選択操作も同一です。

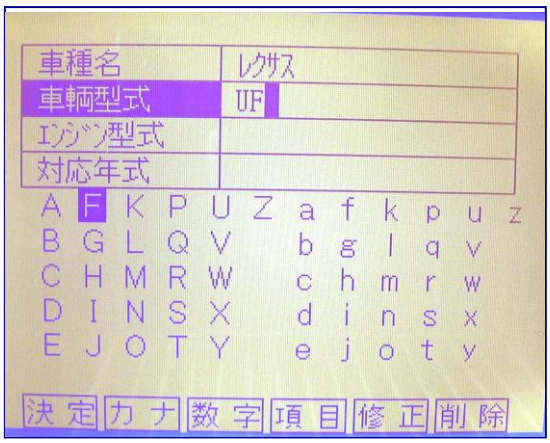
手動（車輌情報の編集）



文字や記号を選択して車輌情報を編集できます。

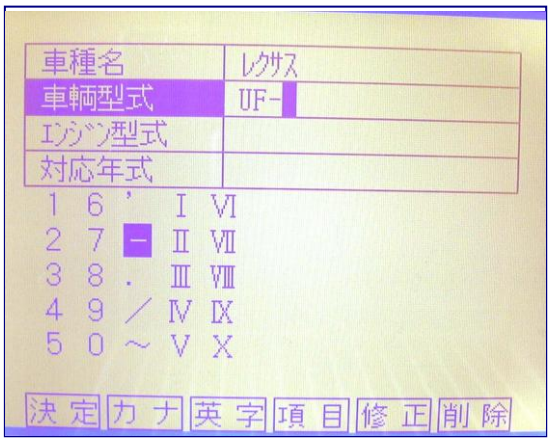
1. 決定　：車種設定画面に戻ります。
2. 英字、カナ：文字一覧表を表示します。
3. 数字　：数字及び記号一覧表を表示します。
4. 項目　：ＥＮＴすることで項目を移動します。
5. 修正　：ＥＮＴすることでカーソルを移動します。
6. 削除　：カーソル位置の文字を消去します。

ＥＳＣは動作しません。



ソフトキーの選択は↓キーでソフトキーにカーソルを移動し、→←キーで選択してＥＮＴで実行してください。

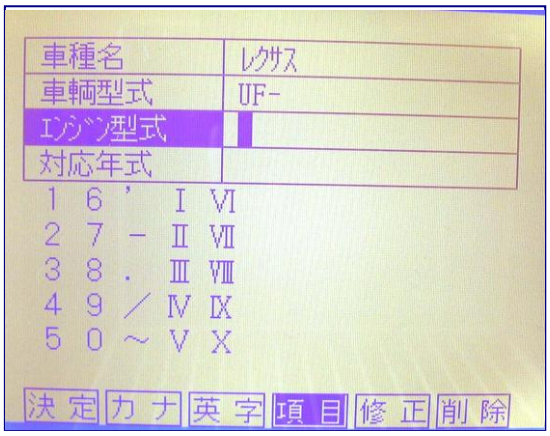
文字の選択は↑↓→←キーで選択しＥＮＴで決定してください。



数字及び記号は英字に移動してＥＮＴをＯＮしてください。

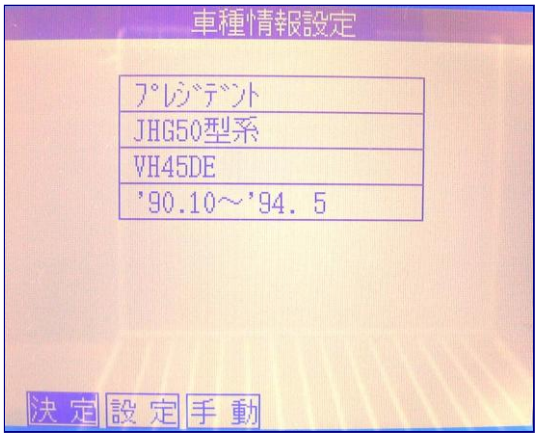
文字の修正
入力した文字は修正と削除で再入力してください。

項目の移動
編集したい項目の選択はカーソルを項目に移動し、ＥＮＴをＯＮしてください。
項目が１つ移動します。



入力済み文字の修正
1. 修正したい項目に移動します。
2. →キーで修正に移動し、ＥＮＴを数回ＯＮして修正したい文字にカーソルを移動します。
3. →キーで削除に移動し、ＥＮＴをＯＮして１文字削除します。
4. 削除した位置に文字を入力します。

車種選択の決定

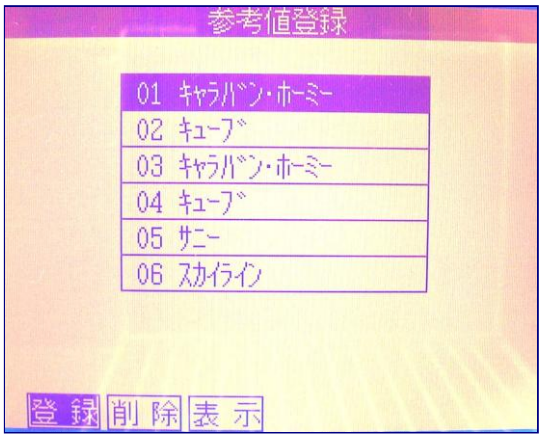


決定を選択してください。

ＥＮＴで参考値データと車輌情報の登録を実行して参考値登録画面に進みます。

ＥＳＣでデータ記録メニューに戻ります。

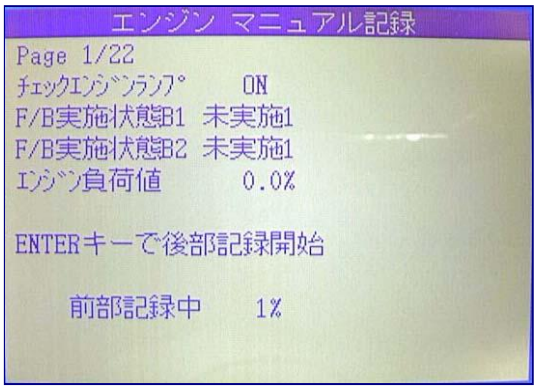
参考値登録完了



登録が終了すると参考値登録に戻ります。
↑↓キーで登録した車両名が表示されることを確認してください。

ＥＳＣで車種選択に戻ります。

マニアル記録



マニアル記録はデータを連続で記録する機能です。
記録時間はＣＵとの通信速度で決定されます。
通信速度の遅いシステムやデータ量の多いシステムは、早い変化を捉えることはできません。

1. 前部記録中にＥＮＴで後部記録がスタートし
   ＥＳＣで記録データが表示されます。

マニアル記録の表示

	O2ｾﾝｻ B1S1 (V)	O2ｾﾝｻ B1S2 (V)	O2ｾﾝｻ B2S1 (V)	ATF 判定
-3	0.120	0.025	0.025	OK
-2	0.120	0.025	0.025	OK
-1	0.120	0.025	0.025	OK
0	0.120	0.025	0.030	OK
1	0.120	0.025	0.025	OK
2	0.120	0.025	0.025	OK
3	0.120	0.025	0.030	OK
4	0.120	0.025	0.025	OK

記録データが表示されます。
左図において 0 項のデータは前部記録中にＥＮＴをＯＮした時点のデータで、マイナスの付いている項のデータは前部記録データで、マイナスの付いていない項のデータは、後部記録データとなります。

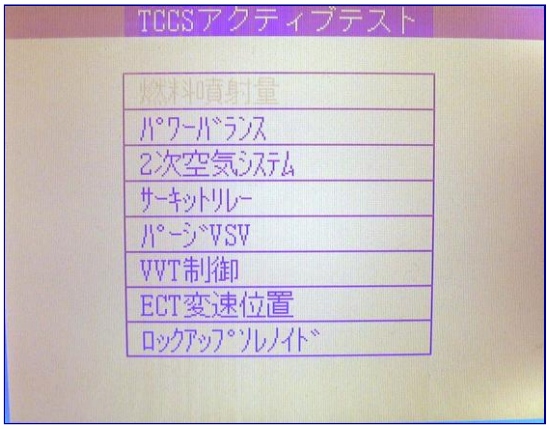
1. →←キーで表示項目を選択できます。
2. ↑↓キーで記録位置を選択できます。

ＥＳＣキーでデータ記録メニューに戻ります。

４－１０－４アクティブテスト

アクティブテストは強制的にテスターからアクチュエータを駆動する機能です。
エンジンでは、ＩＳＣＶ（アイドル・コントロール・バルブ）の開度テストを行い、エンジン回転数の上下変化からエア回路の詰まりや制御回路の点検が行えます。
ＡＢＳシステムではアクチュエータの動作や減圧テストも行え、点検や診断作業にアクティブテストは非常に便利ですが、テスト項目や機能はメーカーにより、大きく異なります。
詳しくは、メーカー別診断ソフト取扱説明書をご覧ください。
また、記録したテスト結果は「カルテ」で読取り、レポートが行えます。

アクティブテストメニュー



例は、トヨタ車（ＣＡＮ対応車）のアクティブテストメニューです。

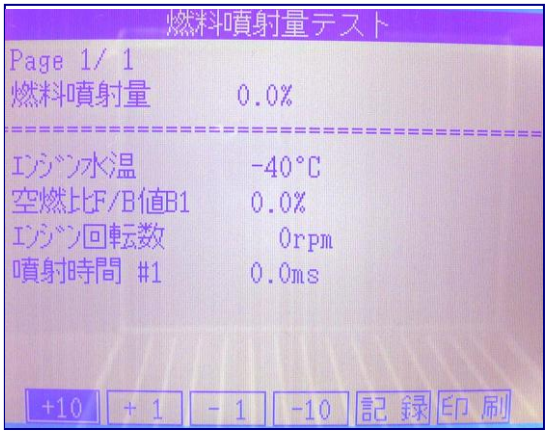
↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣでＴＣＣＳ診断メニューに戻ります。

表示項目選択

通常は、主要項目を選択し、実行します。
選択項目は、データ表示の表示項目選択と同一操作です。

↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣでアクティブテストメニューに戻ります。

燃料噴射量テスト

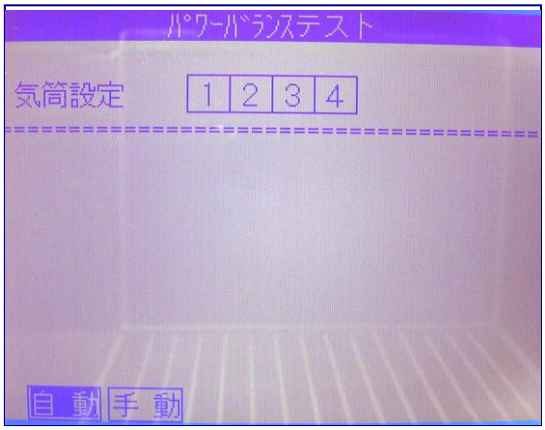


例、燃料噴射量テスト

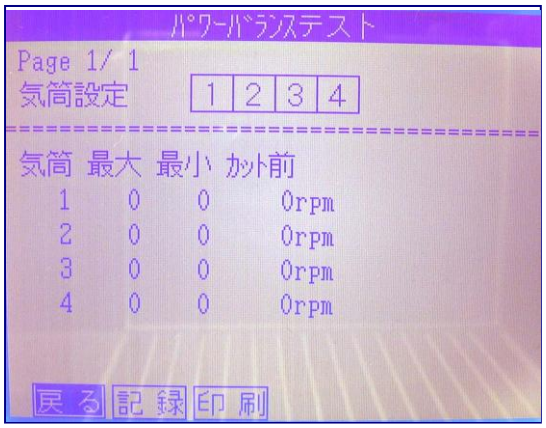
1. 燃料噴射量を多くする（リッチ）
    1. ソフトキーを+10（祖調）に選択する
    2. ＥＮＴを数回ＯＮする。
    3. データ表示燃料噴射時間を確認する
2. 燃料噴射時間を少なくする（リーン）
    1. ソフトキーを-10（祖調）に選択する
    2. ＥＮＴを数回ＯＮする。
    3. データ表示燃料噴射時間を確認する。

空燃比、関連の故障やＯ２センサの診断に最適です。
記録、印刷は、自己診断の機能と同一です。
ＥＳＣでアクティブメニューに戻ります。

パワーバランステスト



自動モード（結果表示）



例、パワーバランステスト
パワーバランステストはエンジン回転数の変化から燃焼不良の気筒を絞り込むテストで、イグニッションコイルやインジェクタの良否判定に最適なテストです。
自動モードでは、インジェクタをＮＯ１気筒から順に停止し、エンジン回転数のカット前（停止前）と停止後の最大回転数と最小回転数を表示します。
正常なエンジンはカット前よりもカット後の回転数が１００回転位低くなります。
手動モードは、走行時、燃焼具合の悪い気筒があるような故障診断時、選択した気筒を停止して走行し、エンジン回転の変化や体感から燃焼不良気筒を絞り込みます。

自動モード
1. ＥＮＴを３回ＯＮするとテストを開始します。（全気筒テストが終了するまで待つ）
2. 全気筒テストを行い、テスト結果を表示します。

手動モード
1. →キーで手動を選択し、ＥＮＴする。（ソフトキーが決定と表示される）
2. →キーで気筒を選択し、ＥＮＴする。（ソフトキーが表示と表示される）
3. ＥＮＴ２回でテストを開始します。
4. テスト中、ＥＮＴで解除となり、テスト結果を表示します。

記録、印刷は、自己診断の機能と同一です。
ＥＳＣでアクティブメニューに戻ります。

４－１１メーカー専用カプラ時の診断

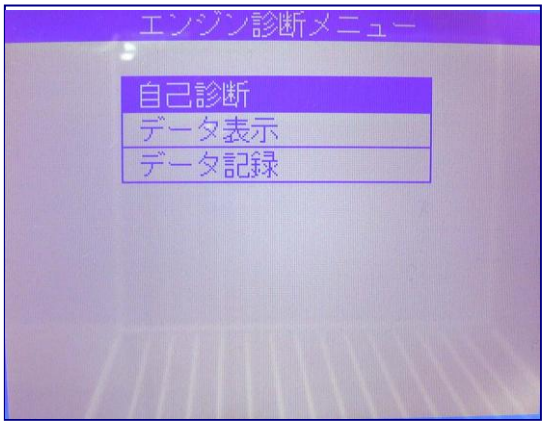
トヨタカプラを選択すると、車種選択が表示されます。
参考値記録の車種選択と同様に選択します。選択内容がトヨタカプラにマッチしない時は、診断メインメニューに戻ります。
選択内容がマッチしていれば、専用カプラ診断メニューが表示されます。
トヨタ車の専用カプラ装着車は、車両側のＯＢＤ機能が自己診断だけで、エンジンは自己診断とデータ表示となり、アクティブテストがありません。
トヨタ以外の車輌では、専用カプラ装着車でもエンジン、Ａ／Ｔ、ＡＢＳなどは、自己診断だけでなく、データ表示やアクティブテスト機能があるメーカーもあります。
詳しくは、メーカー別診断ソフト取扱説明書をご覧ください

車種選択

車種名、車両型式、エンジン型式、年式の各項目を各メニューから選択し、最後に決定します。
6. 車種名　：車種名メニューが表示されます。
7. 車両型式：車輌型式メニューが表示されます。
8. エンジン型式：エンジン型式メニューを表示。
9. 対応年式：対応年式のメニューが表示されます。
10. 決定　：診断メニューに進みます。
選択方法は参考値記録の車種選択と同一です。

ＥＳＣで車種情報設定に戻ります。

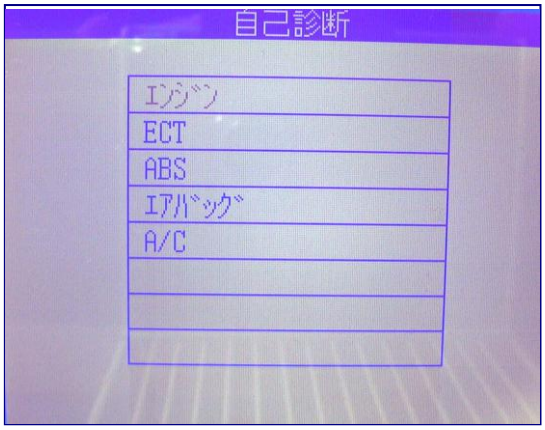
専用カプラ診断メニュー



5. 自己診断
コントロールユニットの記憶している故障コード及び故障箇所を表示します。
6. データ表示、データ記録は共通カプラと同一操作及び機能です。

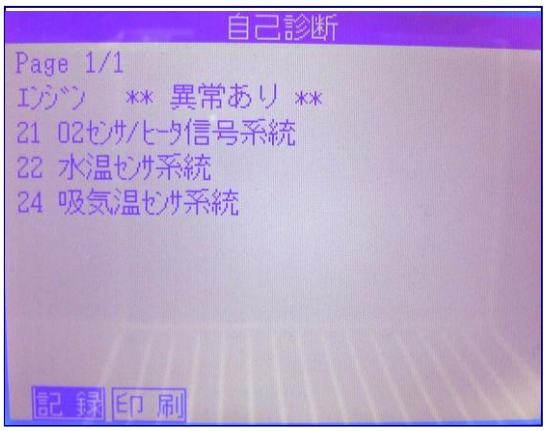
↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣで診断ソフトメインメニューに戻ります。

自己診断メニュー



エンジンルームのダイアグコネクタ装着車の自己診断コードの読取りはエンジンだけです。
ＥＣＴやＡＢＳはインパネのチェックランプの点滅回数を読取り、故障コード変換表をご覧ください。
室内（アクセルペダルの上）ＴＤＣＬコネクタ装着車は読取りをします。

↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣで診断メニューに戻ります。



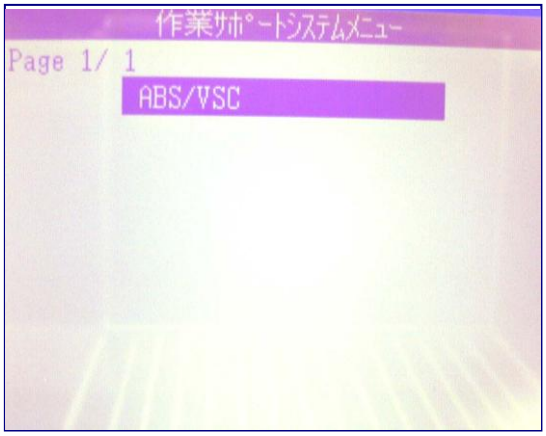
故障コードの読取りは、インパネのチェックランプの点滅に同期して読取ります。
チェックランプの玉切れの場合、読み取れません。
また、エンジンルームダイアグコネクタの車輌は接触不良がないようにカプラの抜き差しを何度かしてください。
年式によっては、Ｗ、ＴＥ２、ＥＮＧ等のピンがない車輌があります。この車輌は診断できません。

記録、印刷は、自己診断の機能と同一です。
ＥＳＣでアクティブメニューに戻ります。

４－１２作業サポート

作業サポートは、エンジンでは、アイドル点検や調整作業にマッチした状態にエンジンの状態をセットし、ＡＢＳや油圧アクティブサスなどでは、エア抜きの補助を行います。
また、バッテリーターミナルを外した場合、電子スロットル装着車はＴＡＳ学習が必要です。
初期化が必要なＡ／Ｔで初期設定を行わないと、変速が正常に行われず、ショックが発生する恐れがあります。
初期化が必要なＡＢＳで初期化をしないと、ニュートラル制御に影響があります。
詳しくは、メーカー別診断ソフト取扱説明書をご覧ください。
また、診断ソフトやバージョンにより、作業サポートが作成されていないソフトがあります。

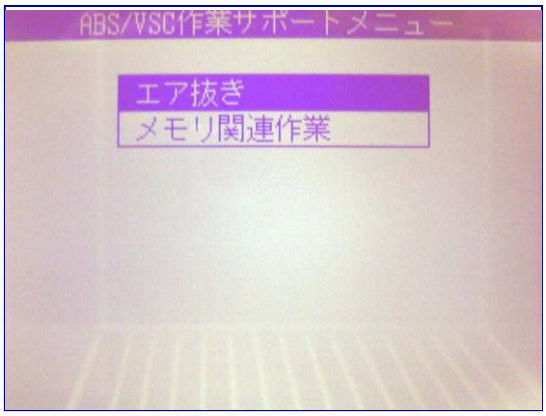
作業サポートメニュー



初期通信を行い、対応システムを表示します。

↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣで診断メニューに戻ります。

ＡＢＳ作業サポートメニュー

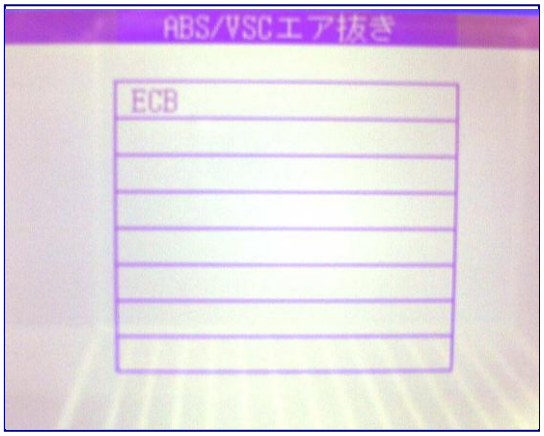


1. ＡＢＳエア抜き

2. メモリ関連作業（初期設定）

↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣで診断メニューに戻ります。

エア抜きシステム表示

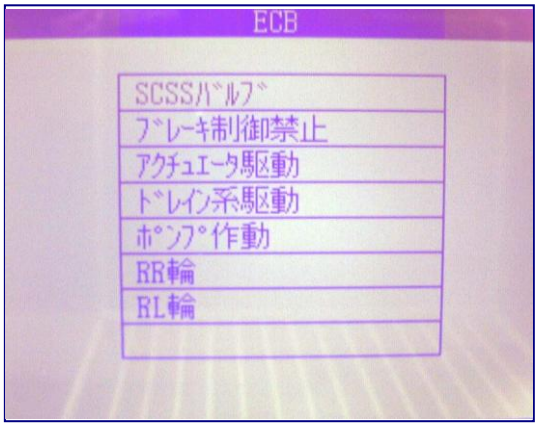


ＡＢＳのシステムを表示します。

ハイドロブースターのシステムもあります。
ハイドロブースターは、→キーでエア抜きを実行する車輪のバルブを選択し、↑キーでＯＮします。
実際のエア抜きは人手によるペダリング作業です。

ＥＮＴで実行、ＥＳＣで診断メニューに戻ります。

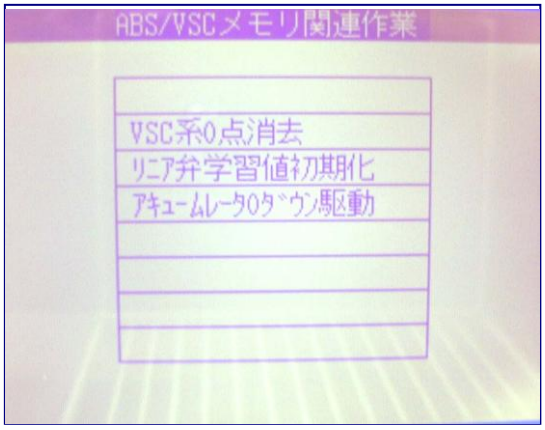
ＥＣＢエア抜きメニュー



エア抜きメニューです
定期的なブレーキフルードの交換とアクチュエータ着脱時などの操作は異なります。
定期的なエア抜きは、ブレーキ制御禁止です。
詳しくは診断ソフト取扱説明書をご覧ください。

↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行、ＥＳＣでエア抜きシステム表示に戻ります。

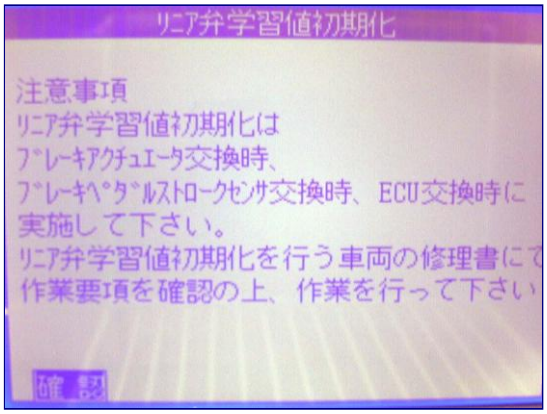
メモリ関連作業メニュー



初期化や学習メニューが表示されます。
↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行してください。
初期設定の内容については診断ソフト説明書をご覧ください。

ＥＳＣキーで前の画面に戻ります。

初期化作業指示例



初期化作業に必要な指示が表示されます。
以降は画面に従い操作を行うことで初期設定が完了します。

ＥＳＣキーで前の画面に戻ります。

5. デジタルマルチメータとオシロスコープ

本テスターはマルチメータ（電圧測定、周波週測定）とストレージオシロスコープを標準で装備しています。
車輌側ハーネスの電源確認や各種センサの信号確認または、アクチュエータの制御信号の確認など車輌との通信による診断では判断できない故障診断に非常に便利です。

5-1 測定に使用する付属品

一般的な電圧測定や波形を測定するには下記の付属品を使用します。

1. 測定ケーブル　　ＤＴ－１０１０（測定用ケーブルで、本体ＣＨ１と接続）
2. プローブ　　ＭＰＳ－１　　（測定ケーブルの先に接続する）
3. グランドクリップ　　ＤＴ－１０１１（測定ケーブルの先に接続し、アースする）
4. バッテリーケーブル　　ＤＴ－１０１０（バッテリーと接続し、本体の電源を取る）

測定ケーブル

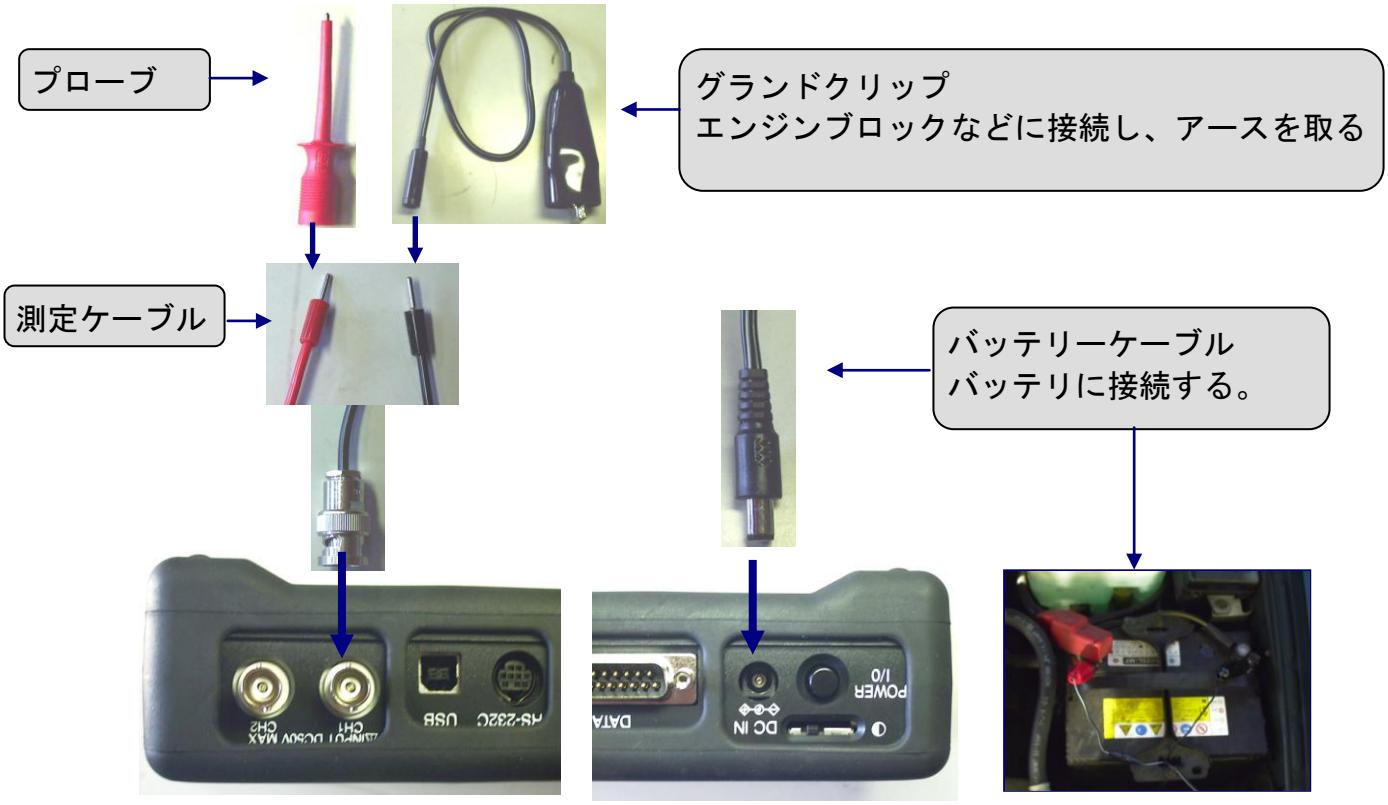
プローブ

グランドクリップ

バッテリーケーブ

5－２セットアップ

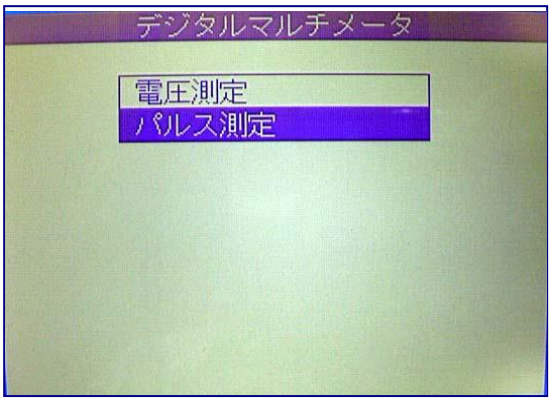
バッテリーケーブルを本体（ＤＣＩＮ）に接続し、赤クリップ（プラス）、黒クリップ（マイナス）をバッテリーに接続する。
測定ケーブルを本体ＣＨ１に接続し、赤プローブを測定ケーブルの赤端子に取付ける。
測定ケーブルの黒端子にグランドクリップを取付け、車輌のシャシーなどに取付ける。



５－３電圧測定

本体の電源をＯＮして、メインメニューからマルチメータを選択する。

マルチメータメニュー



↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行してください。

ＥＳＣでメインメニューに戻ります。

電圧測定

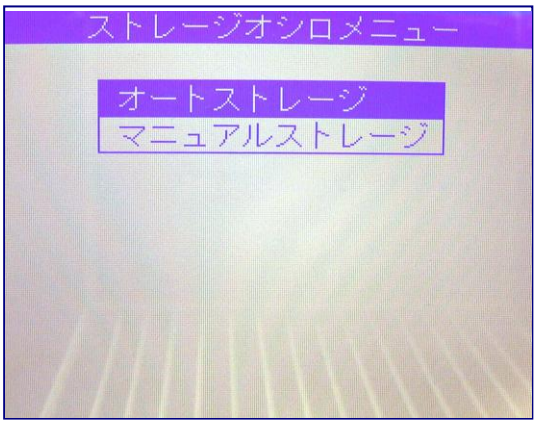
ホールドでＥＮＴをＯＮすると測定がホールドします。再度ＯＮすると測定を再開します。

ＥＳＣでマルチメータニューに戻ります。

５－４ストレージオシロスコープ

ストレージオシロは、オートストレージとマニアルストレージがあります。
オートストレージは、エンジン構成部位がメニューになっています。
測定したい項目をメニューから選択すると、波形を静止して測定する為の電圧、時間、トリガー条件を自動的にセットします。
プローブを信号線または、端子に接触するだけで簡単に波形測定が行えます。
マニアルストレージは、測定条件をキー操作でセットする必要があります。

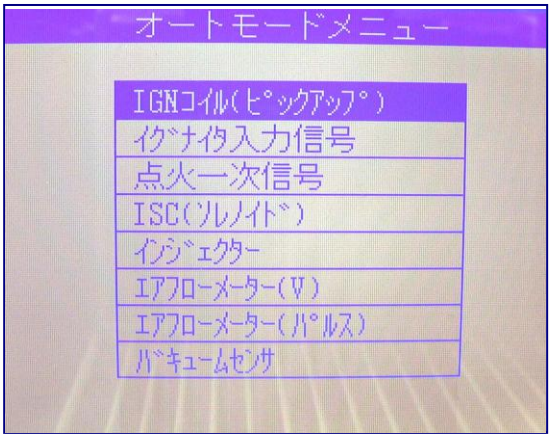
オシロメニュー



↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行してください。

ＥＳＣでメインメニューに戻ります。

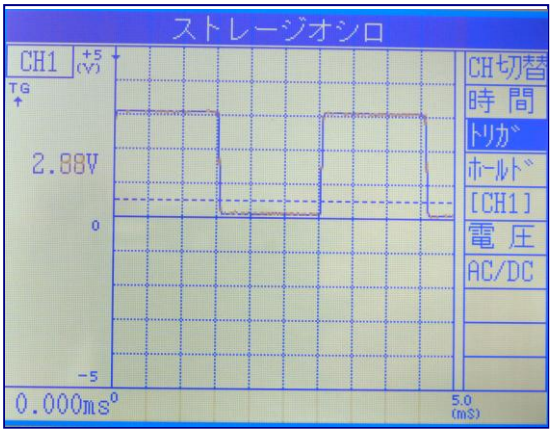
オートモードメニュー



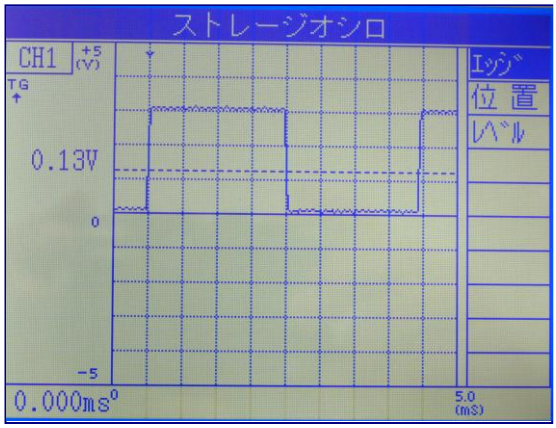
↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行してください。

ＥＳＣでメインメニューに戻ります。

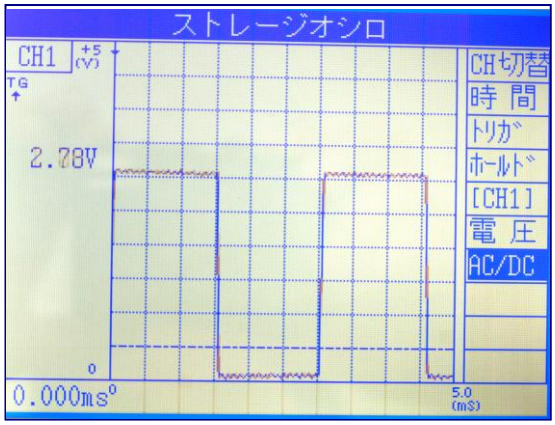
波形測定（オープニング）



トリガ設定



ＡＣ/ＤＣ切替（ＤＣ）



オシロスコープの操作

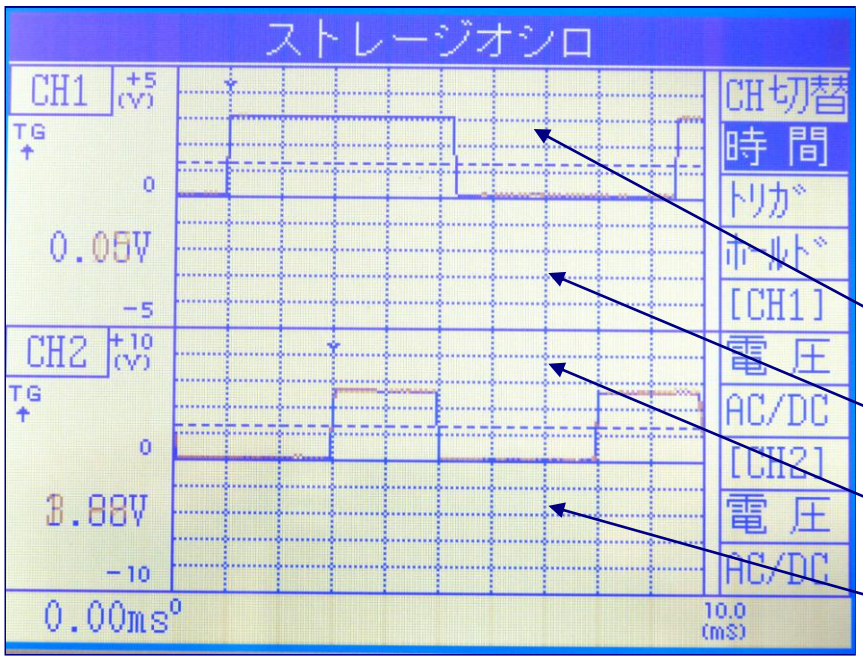
●ＣＨ切替や時間など、項目の変更は↑↓キーで選択します。

●電圧や時間、ＡＣ/ＤＣ及びエッジ、位置、レベルなどの設定は→←キーで変更します。

●トリガ設定は↑↓キーでトリガ項目を選択し、ＥＮＴキーで設定画面が開きます。

1. ＣＨ切替
   →←キーでＣＨ１、ＣＨ２、２ＣＨ同時測定を切り替えて表示できます。
2. 電圧、時間
   →←キーでレンジの切替ができます。
3. ＡＣ/ＤＣ
   ＧＮＤ位置をＡＣでは表示範囲の中心に設定し、±信号を表示し、ＤＣでは０点を表示範囲の最下部に移動し、ダイナミックレンジを広くし、＋信号の表示範囲を広くしています。
4. トリガ
   パルス信号を測定するときに信号を静止させるために設定します。
   ↑↓キーでトリガを選択し、ＥＮＴで設定項目を開き各項目を設定します。
   エッジ、位置、レベルの設定終了後、ＥＳＣで表示に戻ります。
   1. エッジ
      入力信号の立上り、立下りを検出します。
      ＴＧ↑　：立上りトリガ
      ＴＧ↓　：立下りトリガ
      ＴＧＮＯ：トリガ検出をしない。
   2. 位置
      →←キーで表示位置を変更します。
   3. レベル
      →←キーで電圧の境界線位置を変更します。

２ＣＨ表示（ＡＣ表示）



２ＣＨ表示を選択した場合、初期表示はＡＣ表示となっています。
必要によりＤＣに切り替えて表示範囲を広げ測定します。

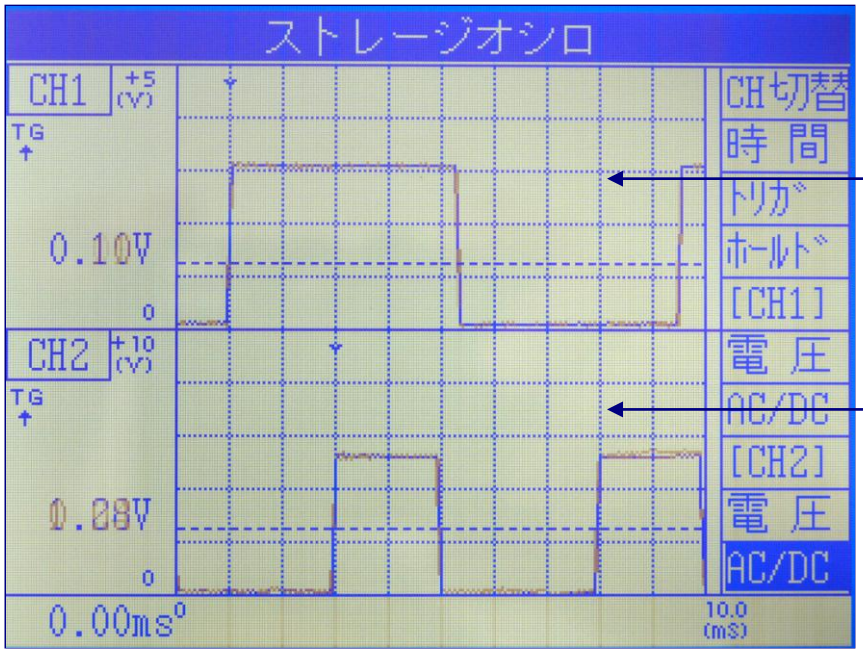
ＣＨ１　＋信号表示範囲

ＣＨ１　－信号表示範囲

ＣＨ２　＋信号表示範囲

ＣＨ２　－信号表示範囲

２ＣＨ表示（ＤＣ表示）



ＣＨ１　＋信号表示範囲

ＣＨ２　＋信号表示範囲

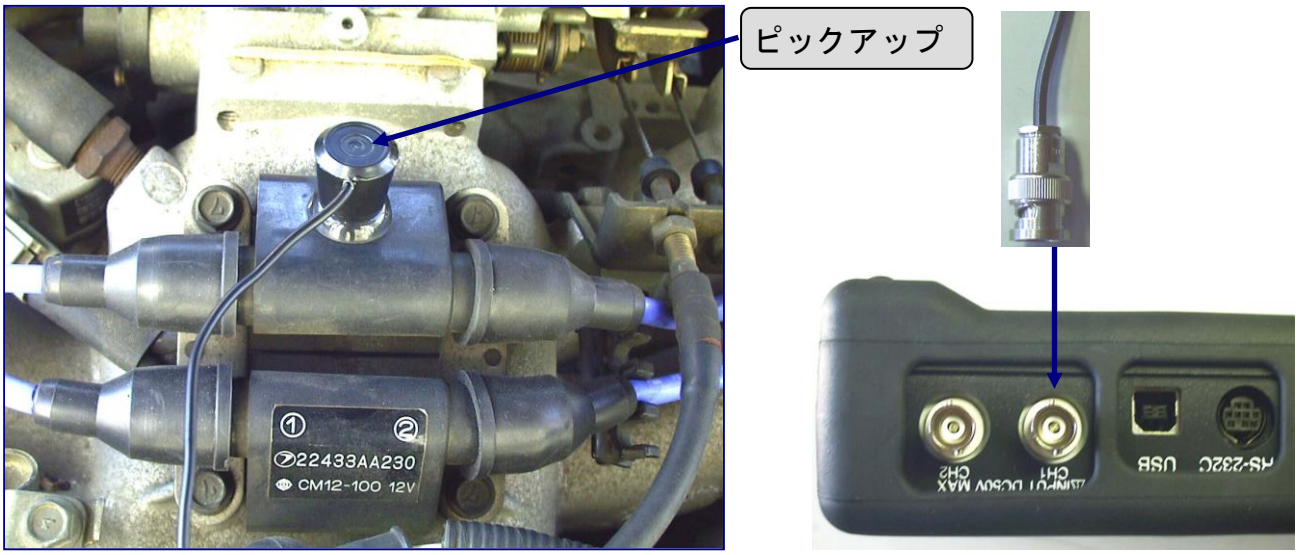
●位相測定

信号Ａと信号Ｂの位相を測定する場合は、ＡまたはＢどちらかの信号を基準とし、基準信号に対し測定する信号が進む、または遅れることを測定します。

クランク角信号とカム角信号の位相を測定する場合はクランク角信号をＣＨ１に入力し、カム角信号をＣＨ２に入力してトリガはＣＨ１のみ設定しＣＨ２はトリガをかけないで測定します。

５－４－1 イグニッションコイル放電測定

この測定はオプションのピックアップセンサ（ＤＴ－ＰＩＣ）をＣＨ１に取付けて使用します。
イグニッションコイルにピックアップセンサを取付ける。（汚れをよく落として取付ける）
用途はエンジンが始動しない時、火花が飛んでいるか点検を行う際、非常に便利です。
オシロスコープのオートモードメニューからＩＧＮコイル（ピックアップ）を実行します。
放電波形が観にくい場合は、トリガー条件や電圧レンジを調整してください。



放電波形表示

イグニッションコイルの放電波形が表示されます。

ＥＳＣでメインメニューに戻ります。

6. 疑似信号

疑似信号は、アクチュエータ制御信号をテスターから出力し、アクチュエータを駆動して動作を確認するテストです。
この章では、オプションのドライブユニット（ＤＴ－３００１）を使用したイグニッション性能テストをご説明します。
イグニッションコイルのテストは、放電ギャップを１５mm位離して放電テストを行います。
正常なコイルは、太い、青い火花が飛び、不良品は、少し赤く、細い火花が飛びます。
ドライブユニットの詳細は、ＤＴ－３００１取扱説明書をご覧ください

６−１セットアップ

ドライブユニットとその付属品のハーネス及びテストギャップを確認してください。

ドライブユニット

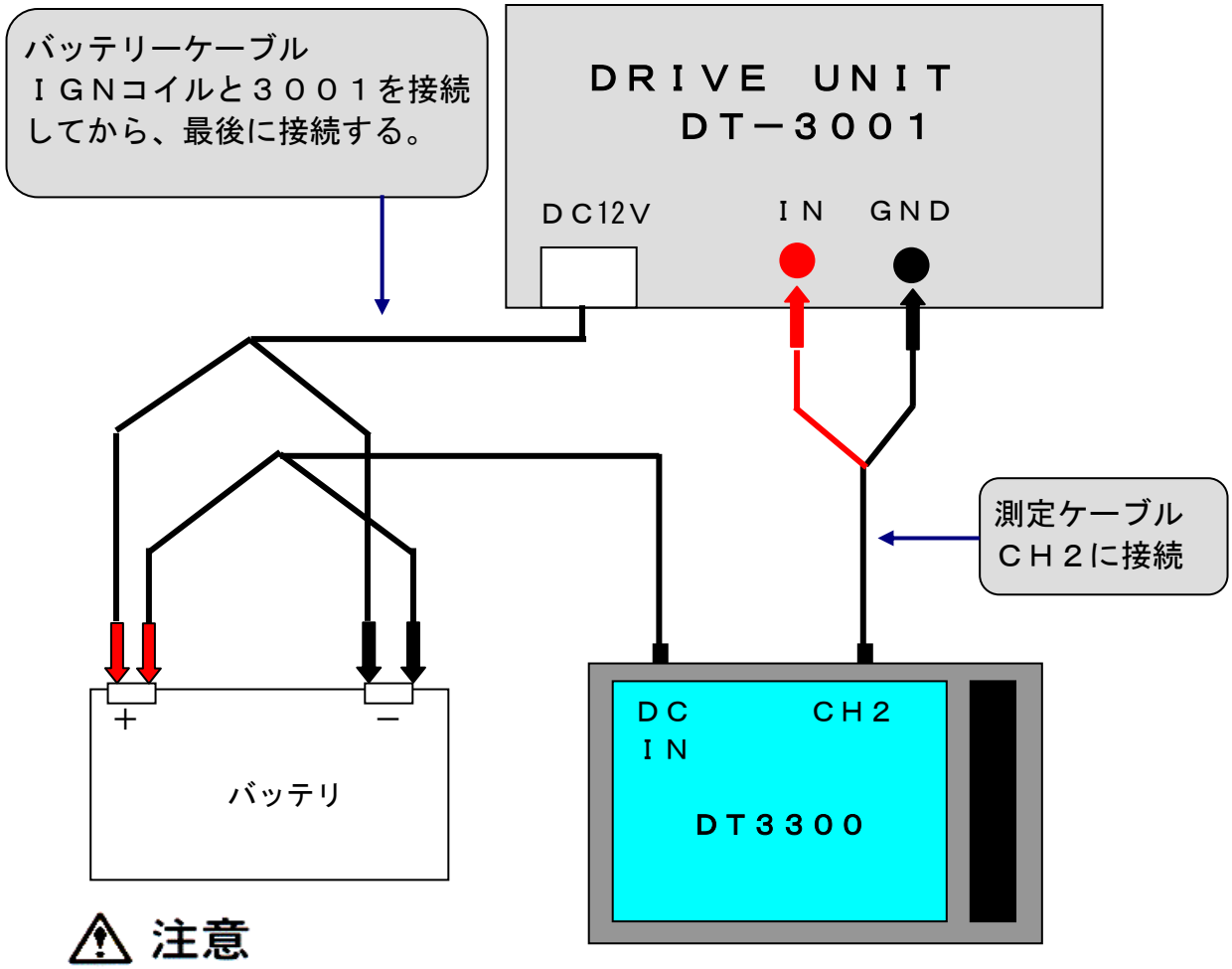
テストギャップ

６−２ＤＴ３３００とＤＴ－３００１の接続

バッテリーの逆接続に注意してください

ＤＴ－３００１の付属品バッテリーケーブル（白いコネクタについているケーブル）はイグニッションコイルとＤＴ－３００１を接続してから最後に接続します。

バッテリーケーブルのコネクタを３００１に接続した時、ＰＯＷＥＲランプのみ点灯することを確認してください。（ＰＵＬＳやＯＵＴのランプも点灯の場合、コイルの接続が間違いです。）



⚠ 注意

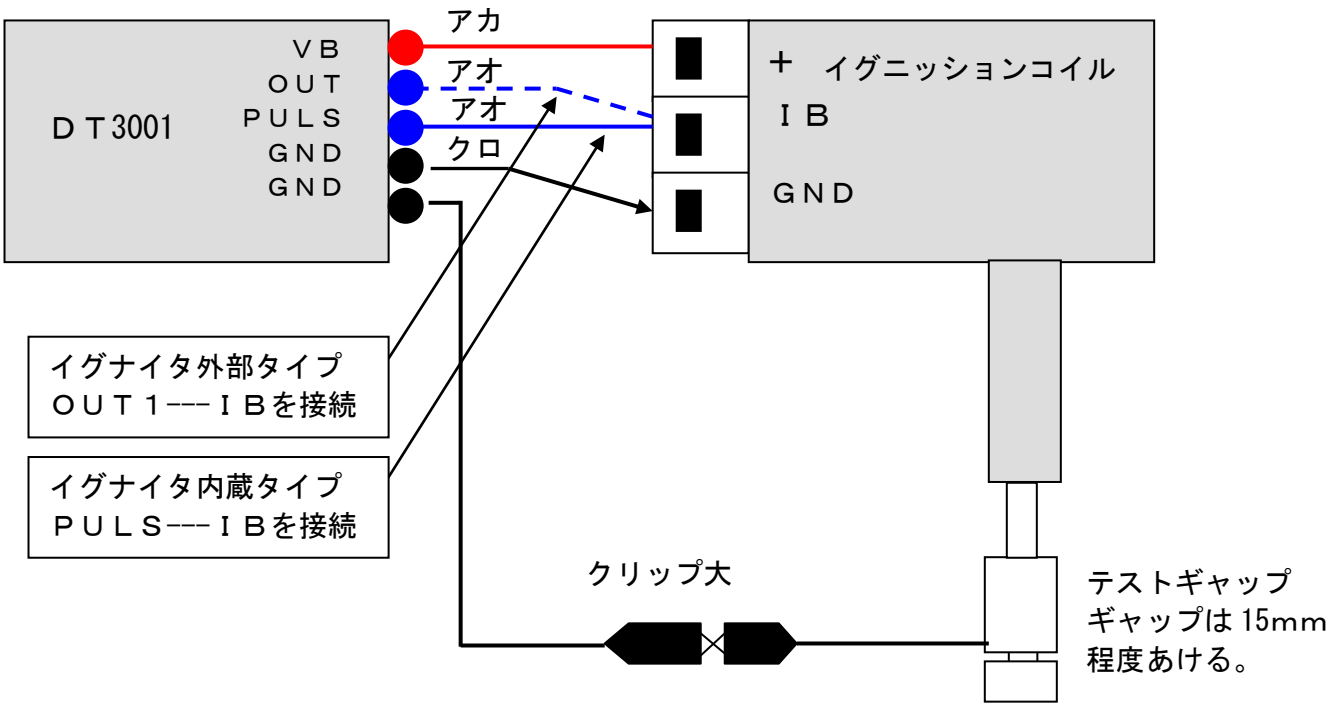
バッテリーの逆接続に注意してください。

６−３イグニッションコイルとＤＴ－３００１の接続

イグニッションコイルとＤＴ－３００１を接続します。
ＤＴ－３００１の端子は下記の機能があります。

1. ＶＢ端子　-----　電源端子でバッテリー電圧を出力します。
2. ＯＵＴ　-----　ＤＴ－３００１に内臓されているイグナイタの出力端子です。
3. ＰＵＬＳ　-----　点火パルスを出力します。
4. ＧＮＤ　-----　グランド端子です。バッテリーのマイナス端子に接続されています。
5. ＤＣ１２　-----　ＤＴ－３００１の電源供給コネクタです。
6. ＩＮ　-----　ＤＴ－３００１から点火パルスを入力する端子です。

イグニッションコイルには、記号が記載されているコイルと無印のコイルがあります。
イグニッションコイルは電源端子、点火信号入力端子、グランド端子から構成されています。
イグナイタ内臓のコイルは接続を間違うと損傷する恐れがあります。
コイルの端子が解らない時は、車輌側ハーネスの端子電圧を測定して電源端子とグランド端子を確認してください。点火パルス入力端子はオシロスコープで入力波形を確認してください。
イグナイタ内臓のコイルを使用している場合、パルス波形が確認できます。
この場合、点火パルス入力端子はＤＴ－３００１のパルスに接続してください。



⚠ 注意

アクチュエータハーネスの接続は点火コイル端子の信号名を確認の上接続してください。
イグナイタ内蔵タイプは点火コイル内部にイグナイタを内蔵しています。
接続を間違えるとイグナイタを損傷することがあります。
キーＯＮで、車両側ハーネスの端子電圧をテスターで、電源（ＶＢ）ＧＮＤ（０Ｖ）を確認し、入力（ＩＢ）はオシロスコープで、エンジンをクランキングして確認してください。

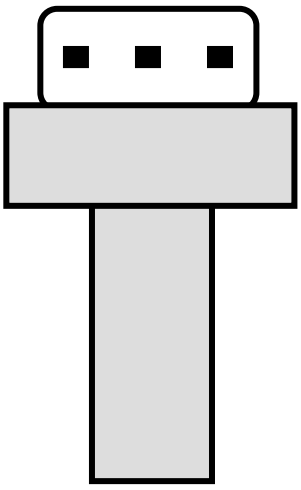
注意　ハーネス側とコイルの端子配列は左右が逆になります。
　　端子配列が確認できないときは、当社お客様窓口にご連絡ください。

イグニッションコイル端子配列表

ダイハツ	ＧＮＤ	ＩＢ	ＶＢ
スズキ	ＩＢ	ＧＮＤ	ＶＢ
ミツビシ	ＶＢ	ＧＮＤ	ＩＢ
ホンダ	ＩＢ	ＧＮＤ	ＶＢ

トヨタ	ＧＮＤ	ＩＧＴ		ＶＢ

イグニッションコイル



６-4 放電テスト

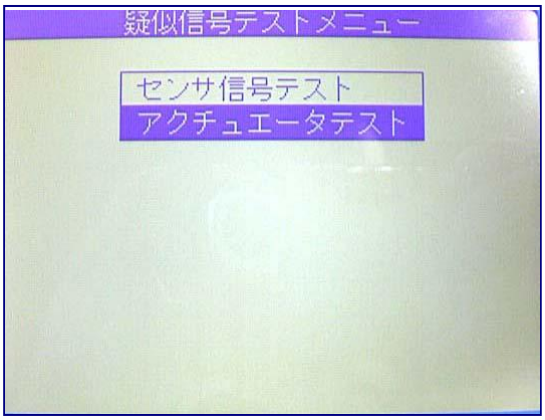
接続が終了したらＤＴ－３００１のＤＣＩＮコネクタにバッテリーケーブルのコネクタを接続します。この時、ＰＯＷＥＲランプが点灯します。
ＯＵＴやＰＵＬＳのランプも点灯す場合は、コイルと３００１の接続が間違っています。
バッテリーケーブルのコネクタを３００１から外し、接続を確認してください。
また、放電テストが終了し、別のコイルをテストする場合は、バッテリーケーブルのコネクタを外してからイグニッションコイルを交換してください。

⚠ 警告

放電テストはイグニッションコイルに過負荷を加えて試験しますので１分で終了してください。

操作順序
1. テスターの電源をＯＮしてメインメニューから疑似信号テストを選択。
2. アクチュエータテストのイグニッションコイルテストを選択
3. ＥＮＴでテストし、再度、ＥＮＴでテストを停止します。

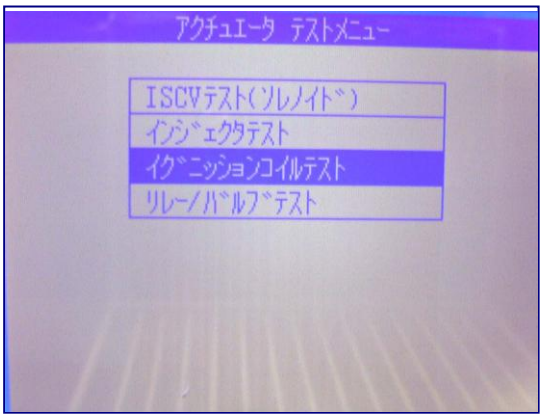
疑似信号テストメニュー



↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行してください。

ＥＳＣでメインメニューに戻ります。

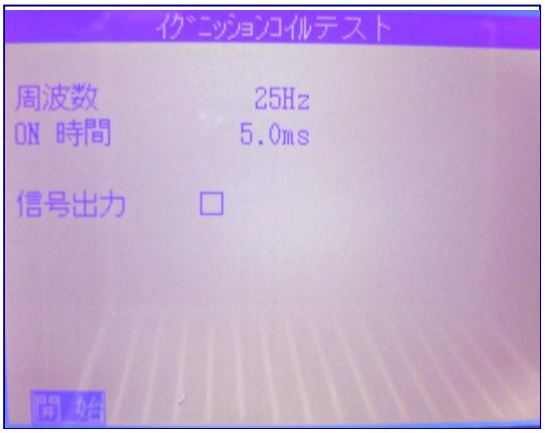
アクチュエータテストメニュー



↑↓キーで選択し、ＥＮＴで実行してください。

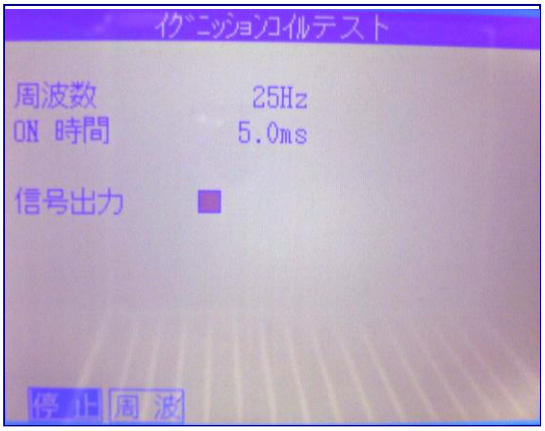
ＥＳＣで疑似信号テストメニューに戻ります。

イグニッションコイルテスト



ＥＮＴすると点火パルスを出力します。
放電しない場合、再度、ＥＮＴして停止してください。イグニッションコイルが不良の場合、放電しないこともあります。

ＥＳＣでアクチュエータテストメニューに戻ります



点火パルスを出力します。

停止　：ＥＮＴで停止します。
周波　：点火パルスの周波数を上下できます。

ＥＳＣまたは、ＥＮＴで停止します。

保証について

（１）本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満一年間は無料修理致します。
お買い上げの販売店または、弊社にお申し出下さい。

（２）　次の場合、上記保証期間内であっても無料修理の対象とはなりません。

① 取扱説明書に記載されている取扱内容と異なった取扱による故障。

② 取扱説明書に記載される弊社以外で修理、改造、分解清掃等を行なった場合の故障。

③ お買い上げ後の輸送、落下等による故障。

④ 火災、地震、水害、落雷、その他の天災、地変、公害や指定外の使用電圧による故障。

保　証　書

顧客登録をしますので下記記入欄にご記入の上当社までＦＡＸしてください。
登録がないと、万一故障が発生した場合、保証期間であっても有償修理に
なる場合がありますので必ずＦＡＸしてください。

商　品　型　式		ＤＴ－３３００		
ＩＤ及びパスワード		ＩＤ（　　）パスワード（　　）		
保　証　期　間		本体お買い上げ日より１年		
お客様	会社名			
	部署名			
	役職 氏名	フリガナ		
	郵便番号 住　所			
	ＴＥＬ		ＦＡＸ	

販売店	住所・店名・ＴＥＬ

株式会社　日本ベンチャー

問　診　表

会社名		担当者名	
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
車種/年式		ENG 型式	
車両形式		走行距離	
不具合 症状			
診断及び 点検内容			
結果			

株式会社　日本ベンチャー

Venture Club 会員契約書　（内容確認用）

第1条（総則）
会員（以下「甲」）と株式会社 日本ベンチャー（以下「乙」）とは会員契約について、以下の条文の契約を締結する。

第2条（診断ソフト）
契約期間中、乙は、甲に対し（診断ソフト）のバージョンアップ及び新規診断ソフト（乙が開発する自動車用故障診断ソフト）は、特別料金を請求することなく提供する。

第3条（診断ソフトバージョンアップ）
乙は、診断ソフトのバージョンアップを年間３メーカ行ない、乙のホームページに掲載し、甲に通知する。

第4条（会員パスワード）
乙は、甲に対し会員名及びパスワードを発行する。甲はパスワードを使用し乙のホームページ
から診断ソフトをダウンロードできる。

ベンチャークラブ会員ＩＤ（　　）　　パスワード（　　）

第5条（参考値データ）
甲は乙のホームページに存在しない車両の参考値を記録し、メールで乙に送り、掲載依頼をする。
乙は、ホーページに掲載する。

第6条（会費及び納入方法）
甲は、乙に対し下記に記載の通り、会費を支払う。
1）会費　　月額　2,100円（税込み）第１回目納入期日　平成　　年　　月　　日とする
2）納入方法　　納入は代行引き落としにより２ヶ月ごとに４，２００円が引き落とされる。

第7条（入会資格）
ベンチャークラブに入会できる資格は当社、診断テスターを購入されたお客様で、ベンチャークラブの目的を認識し、参考値データの記録及び掲載依頼が実行できるお客様とする。

第8条（契約期間）
契約期間は甲が脱会申し込みを行なうまでの期間とする。

第9条（脱会及び契約の解除）
甲は脱会する時は、書面をもって乙に通知する。再入会はできないものとする。
また、会費の未納の場合、甲、乙話し合いにより会員契約を解除する。

平成　　年　　月　　日

甲

乙

株式会社　日本ベンチャー
茨城県水戸市笠原町 1675-5
tel 029-305-8667　fax 029-305-8668
URL://www.japan-venture.com

客様相談窓口
（土日及び祭日を除くＡＭ１０時～ＰＭ５時）
電話０５０-３４９２-０３４４

診断テスターＤＴ－３３００
取扱説明書

印刷発行　2007 年 12 月

編集発行　株式会社日本ベンチャー
自動車診断機器グループ